

| 中高    | コース等   | 学年   | 単位数  | 教科   | 科目               | 教科書 | 副教材    |
|-------|--|--|--|--|------------------|-----|--------|
| 高     | IG   | 1  | 1  | 総合   | コア探究 I A<br>(コア) | なし  | 鹿島建設教材 |
| 到達目標  | <p><b>【下記①～③について学んだことを、教科学習や学校生活で活用できることが到達目標】</b></p> <p>①高校での探究学習の基礎を身につける（探究とは何か、探究の方法やスキル）。</p> <p>②「問う」力の向上を目指す。問いから深い思考ができるようになる。その結果学ぶ意義を自ら見出したり身近な課題を解決する糸口とすることができるようになる。</p> <p>③議論ができ、成果が出るチーム・学級集団を作る。集団的な学びの主体形成を目指す。</p> |  |  |  |                  |     |        |
| 評価の観点 | ①探究の方法とスキル (S)   | ②問いを立てる力 (Q)   | ③チーム作り (T)   | 【学校生活への活用】   |                  |     |        |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び方が理解でき、自分に効果的なものを実践できる。</li> <li>・自己管理ができ、自分の行動を客観的に見れる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見聞きした情報に対して様々な問いを立て、理解を深めることができる。</li> <li>・学ぶ意義や身近な問題解決の場面で問いを考えることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームになることにより、より良い成果が残せる。</li> <li>・チームに自分なりに貢献できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・①～③が学校生活のいろいろな場面（授業・クラブ・行事など）実践できる。</li> <li>・自身のコアとなるものを育てることができ、それを自分で理解する。</li> </ul> |                  |     |        |
| 評価の方法 | ポートフォリオ評価。毎回の授業のワークシート、授業で課外レポートなど学びの成果をまとめたものを見て総合的に評価する。なお教科の性質上、学校生活全般が評価の対象となる。  |  |  | 定期考査実施   |                  |     |        |
|       |  |  |  |  | 中間               | 期末  | 課題点(%) |
|       |  |  |  | 1学期  | ×                | ×   |        |
|       |  |  |  | 2学期  | ×                | ×   |        |
|       |  |  |  | 3学期  | ×                | ×   |        |
| 進級課題  |  |  | まとめのレポート。単位はCSLとまとめて「コア探究 I」（2単位）として認定。  |  |                  |     |        |
| 期間    | 時間数  | 学習項目   | 学習到達目標   | 評価方法   |                  |     |        |
| 1学期   | 中間まで   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題解決（その方法とスキル）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決の基本を学ぶ</li> <li>・高校生としての学び方を知る</li> <li>・課題解決に必要なスキルを学ぶ</li> <li>・議論することでよりよい成果を残せる集団になる。</li> <li>・課題解決から身の回りの課題の解決に活かせるようになる。</li> </ul> |  |                  |     |        |
|       | 期末まで   |  |  |  |                  |     |        |
| 2学期   | 中間まで   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会問題解決（その方法とスキル）</li> <li>・問いを立てる（学びの意義、問いの立て方）</li> <li>問いと仮説から課題解決を目指す</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことの意味について問いを立てることから、問の立て方を知る。</li> <li>・身近な課題について問いを立てながら解決を目指す。</li> <li>・自らのキャリア・課題など大きなテーマについて問いを立てる。</li> </ul>                          |  |                  |     |        |
|       | 期末まで   |  |  |  |                  |     |        |
| 3学期   | 期末まで   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題と発表のスキル</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を知り、実際に課題解決を目指す。</li> <li>・探究の成果を発表するスキルを学ぶ。</li> </ul>   |  |                  |     |        |
| 備考    |  |  |  |  |                  |     |        |

## 2020年度高校1年探究学習実施一覧

| 回  | コア探究日程    | コア探究内容                       | CSL日程     | CSL内容               |
|----|-----------|------------------------------|-----------|---------------------|
| 1  | 5月13日(水)  | 探究オリエンテーション(Online)          | 5月29日(金)  | オリエンテーション(Online)   |
| 2  | 5月27日(水)  | 探究「学ぶスキル」(Online)            | 6月5日(金)   | オリエンテーション(Online)   |
| 3  | 6月10日(水)  | 探究「新型コロナ禍で学ぶ」                | 6月12日(金)  | 話し方・聴き方             |
| 4  | 6月17日(水)  | 鹿島建設提供教材第1回目(導入)             | 6月19日(金)  | 言葉かけ                |
| 5  | 6月24日(水)  | 地域モジュール①丸の内モジュール1            | 6月26日(金)  | 謝り方・頼み方・断り方         |
| 6  | 7月1日(水)   | 地域モジュール②丸の内モジュール2            | 7月3日(金)   | 認知                  |
| 7  | 7月8日(水)   | 地域モジュール③女川モジュール1             | 7月10日(金)  | CSL内容活動説明           |
| 8  | 7月15日(水)  | 学校祭(興風祭)企画検討(コアの学びを活かして考える)  | 7月17日(金)  | キャリアアンカー、ブランドハブスタンス |
| 9  | 7月22日(水)  | 地域モジュール④女川モジュール2             | 7月24日(金)  | スポーツの日(祝日)          |
| 10 | 7月29日(水)  | 地域モジュール⑤羽田空港モジュール1           | 7月31日(金)  | 終業式                 |
| 11 | 8月26日(水)  | 鹿島教材地域モジュール⑥羽田空港モジュール2       | 8月28日(金)  | SNS                 |
| 12 | 9月2日(水)   | 学びみらいPass講演会                 | 9月4日(金)   | 月に迷った(NASAワーク)      |
| 13 | 9月9日(水)   | 鹿島建設教材モジュールのまとめ              | 9月11日(金)  | ソーシャルスキル総括          |
| 14 | 9月16日(水)  | 探究「学びと問い」①[主任]               | 9月18日(金)  | R-CAPふりかえり          |
| *  | 9月23日(水)  | 興風祭準備日                       | 9月25日(金)  | 興風祭                 |
| 15 | 9月30日(水)  | 探究「学びと問い」②[主任]               | 10月2日(金)  | R-CAPふりかえり②         |
| 16 | 10月7日(水)  | 科目選択について(学園と立命館大学)           | 10月9日(金)  | なぜ学ぶ①               |
| *  | 10月14日(水) | 中間考査                         | 10月16日(金) | なぜ学ぶ②               |
| 17 | 10月21日(水) | 探究「学びと問い」③(全体会&教科編1)         | 10月23日(金) | 学部調べ①               |
| 18 | 10月28日(水) | 探究「学びと問い」④(教科編2)             | 10月30日(金) | 学部調べ②               |
| 19 | 11月4日(水)  | 探究「学びと問い」⑤(教科編3)             | 11月6日(金)  | 学部発表①               |
| 20 | 11月11日(水) | 探究「学びと問い」⑥(教科編4)             | 11月13日(金) | 学部発表②               |
| 21 | 11月18日(水) | 探究「学びと問い」⑦(教科編5)             | 11月20日(金) | 学部発表③               |
| 22 | 11月25日(水) | 探究「学びと問い」⑧(教科編まとめ)           | 11月27日(金) | しごとーク               |
| *  | 12月2日(水)  | 期末考査                         | 12月4日(金)  | なぜ働く1               |
| 23 | 12月9日(水)  | コア探究2学期のまとめ                  | 12月11日(金) | なぜ働く2               |
| 24 | 12月16日(水) | 植物公園プロジェクト講演会(6限CLS全体会として実施) | 12月18日(金) | キャリアデザイン総括          |
| 25 | 1月13日(水)  | 植物公園プロジェクト①                  | 1月15日(金)  | 植物公園プロジェクト アイデアだし   |
| 26 | 1月20日(水)  | 植物公園プロジェクト②                  | 1月22日(金)  | 臨時学年閉鎖              |
| 27 | 1月27日(水)  | 植物公園プロジェクト③                  | 1月29日(金)  | 植物公園プロジェクト Xチャート    |
| 28 | 2月3日(水)   | 植物公園プロジェクト④                  | 2月5日(金)   | コンセプトマップ作成          |
| 29 | 2月17日(水)  | 植物公園プロジェクト⑤                  | 2月19日(金)  | 学術祭準備               |
| 30 | 2月24日(水)  | コア探究年間まとめ                    | 2月25日(金)  | 1年間の振り返り            |

## 2020年度コア探究ガイダンス

コア探究とは・・・

そもそも・・・

- ▶ コア探究は、何をする授業？
- ▶ コア探究は何のために実施するの？

### 国民の義務って何でした？

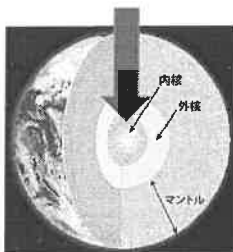
- ▶ 日本国憲法 第三十条  
国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。
- ▶ つまりは権利の主体者として税金も納めてね、と言っている。
- ▶ 通常は国民は労働の生み出す価値の対価としての賃金を受け取りその一部を税金として納める。
- ▶ 「労働する」=「はたらく」ということはどういうことか、人はどうしたら何十年も働くことができるのか。

### コア探究の目指すところ

- ▶ コア探究の目指すところは、みなさんが主体的にものごとに関わり創造的な生活を送ると同時に、高校での学びをより豊かなものとして未来に繋げること。そして将来持続的に働き続けるチカラを身に付けること
- ▶ 主体的・創造的とは例えば「与えられるでなく」「自ら係わり」「理解するだけでなく」「活用しようとする」姿。
- ▶ 短期記憶で覚えたものは直ぐに忘れて役に立たない。それよりも物事を見る目を養い、考え方を学ぶ。

### コアとは・・・

コア (CORE) = 惑星・衛星などの核



中心部・核という意味。

コアの授業は、様々な学びの中心となるもの(核)を育てることを目的とした授業

ではそのような「学びの核」とはどんなものだろうか

### IBコースの学びから・・・

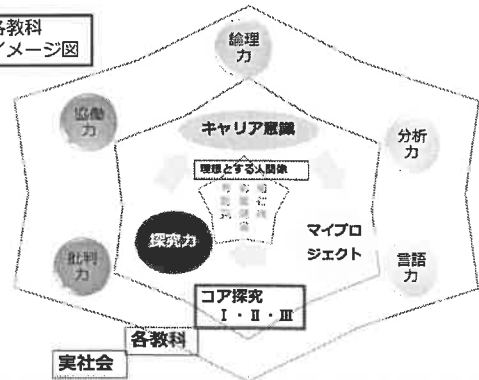
- ▶ IBコースの学びは世界共通ですがその学びには3つのコア科目と呼ばれているものがあります。
  - ▶ ■EE (Extended Essay) 【課題論文】  
自分のテーマを見つけ、探究し、論文を作成します。
  - ▶ ■TOK (Theory of Knowledge) 【知の理論】  
知識とは何か、という問いに対して深く考えていきます。
  - ▶ ■CAS (Creativity, Action, Service) 【創造・活動・奉仕】  
社会体験を通して自分自身を成長させていきます。
- つまり、「知識」や「考え方」を学び、社会体験で実践しながら、自分の問いを立て、探究し、それを表現するのです。

## コアとは・・・

- ①学ぶ主体となるための  
エッセンス（スキル、マインド）を育てる授業。
- ②総合的な探究の時間として、3年間実施。集大成として高校3年では卒業研究をしてまとめる。
- ③高1ではコア探究の授業とは別にCSLがある。CSLはどちらかと言えば社会体験やキャリアに結びつく内容が多い

コア探究が教科やクラブ・行事のより良い学びの基礎となり、逆に教科の学びがコアの学びを裏付けることが理想。

コア科目と各教科との関係・イメージ図



## いきなり質問！

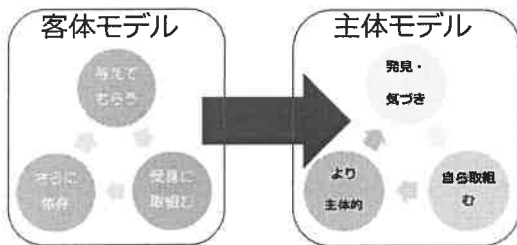
- ▶ Q. ○○に入る言葉を答えなさい。  
周囲と相談してもかまいません。  
時間は20秒！
- ▶ ○○に指示されている限り、僕らは何も学んでいない  
「たった一つを変えるだけ by Dan ROTHSTEIN & Luz SANTANA」から

## では解答！

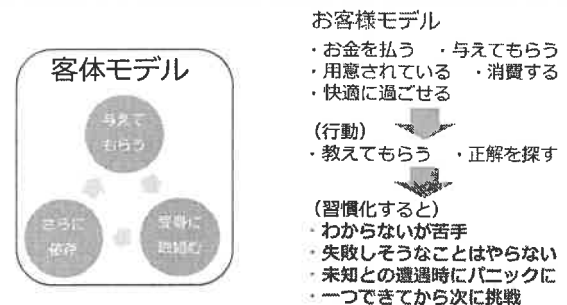
- ▶ A. 大人、教師
- ▶ この答えを聞いて、どう思いますか？
- ▶ そもそも何かを学んでいるのは、どのような時ですか？自分自身考えてみよう！

最も大切なこと

提供される側から提供する側へ



## 客体モデルの例・お客様モデル



## 主体モデルの例・生産者モデル

自立・働く  
⇒将来必要なこと！

### 生産者モデル

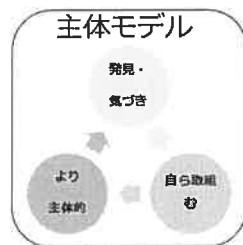
- ・お金を稼ぐ ・与える
- ・自ら価値を創り出す
- ・自分で探す

### (行動)

- ・自ら学ぶ ・探究する

### (習慣化すると)

- ・わからないを楽しむ
- ・何事も前向きにやってみる
- ・挑戦し続ける
- ・ふりかえって学ぶ



## 要するに・・・

- ▶ 客体での学び（受け身の学び）は暗記の延長線
- ▶ この時期の皆さんの脳。特に15～19歳のこの時期の学び・習慣が大切です！

## 具体的に考えてみる

### 生活の中のひとこま 1

- ・音楽を聴く
  - ・歌を聴く
  - ・本を読む
  - ・スポーツを観戦する
  - ・食事をする
  - ・絵画を鑑賞する
- 自分から積極的に楽しんでいない

### 生活の中のひとこま 2

- ・音楽を聴く
  - ・歌を聴く
  - ・本を読む
  - ・スポーツを観戦する
  - ・食事をする
  - ・絵画を鑑賞する
- 自分から積極的に楽しんでいる

### 生活の中のひとこま 3

- ・楽器を演奏する
  - ・歌を歌う
  - ・小説を書く
  - ・スポーツをする
  - ・料理をする
  - ・絵を描く
- 自分から楽しみながら新たな価値を創造する

## 具体的に考えてみる

- ▶ 例えとして、Youtubeのあっちの人とこっちの人
- ▶ Youtuberであるためには、コンテンツをクリエイイトするチカラが要る 既成のものではつまらない
- ▶ Youtuberであるためには、オリジナリティを維持するチカラが要る そのひとらしさが無いとつまらない
- ▶ Youtuberであるためには、求められているものを正しく掴むチカラが要る
  - ・なにが評価されるか知らないつまらない
  - ・Youtubeのコンテンツには検証系がかなりある
  - ・やってみた系動画・実験系・行ってみた・ドッキリ (ニーズがわからないと絶対にウケない)
- ▶ 鑑賞者であるためには見れる環境以外は特に何も必要としない

## 客体の自分と主体の自分

### <受け身の例>～をしてもら～

- ・教えてもらうことが自然と思う。
- ・上達するための方法を自分で工夫したり考えようと思わない。
- ・実際にやるかどうかは別として与えられたことはできる。(自分からはしない)
- ・何のために取り組んでいるのかわからない。

### <能動的な例>～をする～

- ・自分で学ぶのが自然だと考える。
- ・上達するための方法を自分で工夫したり考える。助言を自分から受けにける。
- ・自分で計画して取り組む。
- ・取り組むことの意味を分かっている。
- ・他者への何らかの価値を産み出す。

## 自分の中学校生活を振り返る

- ▶ 客体（受け身の自分）だった時は？
  - ▶ 主体（能動的な自分）だった時は？
- ワークシート3を考え、記入しよう！**

周囲の人と相談して、ワークシート4に記入しよう！



学ぶ主体を目指したとき  
どんな力が必要ですか？  
今の自分は何が足りないものはありますか？

では一体どんなことをするの

- ▶ 課題解決（問題解決）の場面を利用して考える  
（例：地域課題解決）
- ▶ 進路選択  
（例：文系理系選択）
- ▶ 学習方法のスキルアップ  
（例：情報の集め方、議論の仕方を学ぶ）

高校1年コア探究の目指すところ **客体→主体**

①Questions (Asks) (問いを立てる)

⇒何が問題か、課題かを意識することでより慎重に情報を理解することにつながる。

⇒問う力の向上から広く・深い思考ができるようになる。

⇒人生に関わる大きな問いも立てることができるようになる。

⇒問題解決のための仮説を立てることもできればなお良い。

②Study Skills (スタディースキル)

⇒高校生としての学び方、考え方、表現の仕方、時間の使い方を学ぶことができる。

③Team (チーム作り)

⇒①②を支える議論ができて、共同・協力により成果があがる集団作りを目指す。

コアの担当体制／持ち物

<担当体制>

・学年の先生（担任の先生ばかりではない）

<持ち物>

・コアファイル（CSLと共通）

<教室>

・HR教室（違う場所の時は連絡します）

最後に改めて・・・

コア探究とは何なのか？

+本時の感想も書いてください

おしまい

## 2020 コア探究

2 学期のまとめ

## 2 学期を振りかえる

- ・ 2 学期は鹿島建設の教材の続きから始まりました
- ・ その後のメインテーマは「学びと問い」でした
- ・ 「なぜ学ぶのか」という根本問題を考えるために、コア探究では教科の学びを担当団の先生を中心に様々に語っていただき、そこから学んだり、その話しから疑問に思うことを見いだす活動をしてきました
- ・ また一方ではCSLで、学部調べをしました
- ・ この活動を振り返ってワークシートに記入しましょう
- ・ モチロンこの活動だけでパッチリと学びの意味が理解できた人は少ないでしょうが、何かのきっかけにはなったのではないのでしょうか

## 「問いを立てる」を活かす

- ・ 「問いを立てる」練習も積んできました
- ・ いろいろな話を鵜呑みにせず、自分の言葉で置き換える作業をすると、必ず疑問点が湧いてきます
- ・ 先生方のお話では、それはあくまで他人の人生を語られたに過ぎません
- ・ 自分の問題に置き換えたときには当然その先生とは価値観もものの見方も違って良いのです
- ・ そして問いを立てると印象に強く残ったことがありますでしたか
- ・ そこが最も大切なところです。「問いを立てる」を活かすと生活も学習も変わるかも知れません

## 「問いを立てる」を活かす例

問いを立てながら学習してみる

## 国語の評論問題で問いを立ててみる

- ・ 評論文の指示語を見つけて「この指示語は何を指すか」という問いを実践します。
- ・ 主任が高校生のとき、国語の評論の授業は、すべての指示語に○をつけて、その○に対応する場所を線で繋ぐという作業をさせられました
- ・ 当時の国語の先生曰く、「教科書にある文章はしっかりしているから指示語が何を示すかはすべて文中の言葉で説明できる」ということでした。
- ・ コア探究は国語の授業ではありませんが、わかりやすい例として10分間だけ取り組んでみましょう

絵画は  
紙幣に  
憧れる

榎木野衣

高3担任

国語科

稲垣先生

提供資料



### 読解のポイント

★指示語

★接続語

★言い換え表現

稲垣的

評論文

筆者が言いたいことを「自慢げに語る文章」のこと

つまり

自分の意見を相手に認めさせるための根拠を論理立てて説明する文章

相手を説得するためには、論理が飛躍していないことが大切。

①手元に一枚お札を出して、よくよく見てみてください。

②そこに印刷されているのは、なんでしょうか。

③まず第一に人物画です。そして、風景画です。さらには、手の込んだ装飾です。彩りも工夫されています。これは、どう見ても美術作品ですね。

④しかし、おかしいとは思いませんか。もしも、天下の国家が価値を保証するのであれば、そこまで図画の工夫に精を出さなくても、よいではないですか。

⑤しかし、実際にはそれではまずいのです。

ちょっと一緒にやってみましょう！

①次のスライドの文章の指示語を○で囲む

②その指示語の指す言葉を結び

### コア探究から学習の質の転換

- ・ どうでしょうか
- ・ 国語の授業みたいになりましたが、どのような本を読むときでもこうして指示語に気を付けて読むと理解が深まります
- ・ 普段の会話でも「それ」「あれ」「このような」などよく使いますね
- ・ それを意識しないのは、通常はお互いがよく知っていることを話したり、直接見ながら話すからです
- ・ しかし他人の書いた文章を読むときは意識して読まないで理解が曖昧なままになります

①手元に一枚お札を出して、よくよく見てみてください。

②そこに印刷されているのは、なんでしょうか。

③まず第一に人物画です。そして、風景画です。さらには、手の込んだ装飾です。彩りも工夫されています。これは、どう見ても美術作品ですね。

④しかし、おかしいとは思いませんか。もしも、天下の国家が価値を保証するのであれば、そこまで図画の工夫に精を出さなくても、よいではないですか。

⑤しかし、実際にはそれではまずいのです。



## コア探究から学習の質の転換

- ・問いを立てながら読むと言うよりも指示語に気を配るだけでも自然に「この言葉は何を指すのか」という問いを立てたことになります。
- ・また指示語だけでなく接続語を変えてみて文章を読んだり、言い換えを試みるのもよいでしょう
- ・「問い」をたてる作業は、これからのみなさんの学習の質を変えるかも知れません

## コア探究から学習の質の転換

- ・課題が出されたら席卓でやったイメージマップで考える。文章が出て来たら、問いを立てながら読む。
- ・今日から、明日から実践してみよう

## ワークシートの記入とアンケート回答

- ・ではワークシートの記入をしてください。
- ・またClassiのまとめアンケートに必ず回答してください。

## 3学期は表現の手法を学びます

- ・3学期は誰かに「伝える」ことを学習します
- ・伝えるためには自分がイチバン理解していないとダメですね
- ・またしっかり取り組んでいきましょう。

## 宇治植物公園プロジェクト

～本気で、競込めて、宇治の植物園に100万人を～  
～ホンマに本気か？もっとできへんか？～

### 植物公園を魅力的にするために...

- KJ法的手法を用いてアイデアを出していきます (個人ワーク)
- How to KJ法的手法
  - いくつか質問をします。
  - その質問の回答を付箋に書いていきます。
  - 回答は具体的にします。  
ex. 「たのしい」
  - 子供の遊具があり、家族で行くと楽しい
  - そして出てきた付箋を同じような内容のグループに分けます。

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q1

自分が行きたいと思う植物園  
はどんなところ？  
(宇治植物公園に限定されない)

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q2

その植物園に、自分が一緒に行  
きたい人は？  
(宇治植物公園に限定されない)

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q3

宇治植物公園のライバルは？

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q4

ライバルとの違いは  
どんなところ？

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q5

君が宇治植物公園に  
行かない理由は？

では、いきます。  
※各質問、回答時間は1min.

Q6

人が集まる企画、施設は  
どんなもの？

では、いきます。  
※ここまで個人ワーク，制限時間5分

付箋の中で、似たようなもの同士をくっつけて、グループを作り、見出しを付けます。  
グループのつくり方は、君たちの自由な発想にお任せ。

植物公園を魅力的にするために...  
ここからグループワーク

- グループになってください。
- お互いがKJ法で出したアイデアを見ながら、イメージマップでどんどん広げて、繋げていきます。
- その時、同じグループに分類したものは近いところに置くとつなげやすいでしょう。
- 新しいアイデアは必ず付箋に書いて貼ること！
- 制限時間は10分です。

植物公園を魅力的にするために...

- 今回はペルソナマーケティングを行います。
- about ペルソナマーケティング

→ マーケティングにおける「ペルソナ」とはどのような意味なのかというと、商品やサービスの象徴的なユーザー像のことを指します。氏名・年齢・性別・住んでいる地域・家族構成などの基本的な項目から、職業・役職・年収などの働いている環境、趣味・価値観・ライフスタイルなどのプライベートな部分まで詳細に設定し、実在する人物のようには仮説することで、戦略の方向性や具体的な施策を立てやすくなるのです。

How to ペルソナマーケティング  
→ ペルソナの設定 制限時間10分

- ①基本情報（氏名、年齢、性別、居住地、出身地、血液型、誕生日など）
- ②学歴、職歴
- ③現在の職業（業界、業種、職種、役職、年収など）
- ④家族構成（独身or既婚、子どもの有無、彼女の有無など）
- ⑤ライフスタイル（起床時間、就寝時間、通勤時間、日々の食生活、休日の過ごし方など）
- ⑥趣味（インドアorアウトドア、好きな音楽、好きな雑誌、好きな映画など）
- ⑦性格（価値観、目標など）
- ⑧インターネット利用状況（使っているデバイス、日々の利用時間、利用しているSNS、よく見るサイトなど）

高1コア

1年(8)組(4)番( 情報 課程 )

教科編第(1)回 ご担当(主任)先生 教科名(情報科)

高校1年コア探究「学びと問い」教科編プログラム

「学びと問い」教科編では第一回「情報科」を皮切りに連続講座となります。それぞれの教科の先生から、その教科を学ぶ意義や魅力について語っていただきます。その話を聞きながら、疑問に思ったことを文章に書きだすことから始めます。そして、どのような問いが大切か、どのような問いが学びを深めるかを考えていきます。

難しく考える必要はありません。わからないことを聞く、理解できなかつたことを聞くことから始めて、もう少し詳しく聞きたいことや、話し手と違う意見を持つことなどを見つけてながら徐々に問いを高度化させていきましょう。

その際には周囲の助けも借りましょう。自分ひとりでは思いつかない問いが見つかるでしょう。歴史的にも人類は「対話」によって真理に近づく努力をしてきました。他人の知恵も借りながら自分の考えを高度化してきたわけです。

このワークシート冊子は授業の回数に添って順番に埋めていきます。1ヶ月あまり使用しますから、汚したり濡らしたりしないように気を付けましょう。

以上

(今日の問い)

- ①「自分は何を学ぶのか」?
- ②どうすれば質問を作り、問いを立てることができるのか?

(問いを立てる授業 毎回の授業の大まかな流れ)

- ①担当の先生から今日の授業の質問作りの目標、教科の枠組について(1)(12分程度) **情報収集**
- ②担当の先生に対して質問を作る(10分)【質問作り・前半】
- ③担当の先生から前半の質問への回答+教科を学ぶ意味について(2)(10分) **整理・分析**
- ④先生の話しに対して質問を作る。その回答も交えて話をまとめる(13分)【質問作り・後半】 **まとめ**
- ⑤まとめ、今日の気づきを記入(5分) **課題設定**

(注意) 上記はモデルです。授業によっては、たとえば①②③④⑤の順番をまとめてみるともありません。ただし先生の話しと質問を作る時間は同じくらいの間隔を使う授業がほとんどです。

(今日のミッション)

とりあえず質問(問い)を作ることができるようになる。

<質問する内容(例) > 探究テーマ(学ぶ意味)につながる質問がベター

①発表内容についての質問

例) ○○とはどういうことですか? なぜ○○なのでしょう?

②先生個人への質問

例) いつからその教科が好きでしたか? どんなときにその教科の良さを感じますか?

③教科への質問

例) 公園をその教科の目で見ればどんな見え方をしますか? これからその教科が明らかになったことは何だと思いますか?

④その他

例) 大学でどう使いますか? (役立ちますか? つながりますか?) 今取り組まれている研究テーマは?

(大切なこと!) 質問することを意識して話を聞きましょう。その際、先生の言うことを100%肯定的に聞くのではなく、批判的にも聞き、上記①~④に当てはまらないCriticalな質問ができる力を徐々に付けていきましょう。それが探究テーマにつながります。

<質問作り・前半>

(自分で作った質問) **最低3つ!**

- ・「情報」という科目はいつできたのか
- ・情報伝達手段の発達によって日本にもたらした影響
- ・これから情報技術がどう進化していくのか

(まわりの人が作った質問) **最低3つ!**

- ・17からその教科に興味をもち、たのか
- ・大学でどうつながるのか
- ・5Gと4Gの違い

<質問作り・後半>

(自分で作った質問) **最低3つ!**

- ・ Society 5.0にならば、先生と学生は
- ・ 中学生の頃から情報技術を学んでいくべきか
- ・ 危険な情報(有害な情報)が出回っている現状をどう改善していくのか

(まわりの人が作った質問) **最低3つ!**

- ・ コンピューターはこれからもっと発展していくのか
- ・ 情報と社会のしくみの仕組み
- ・ これからのデジタル社会でコンピュータなど、は、何を学ぶのか

★まとめのプリント(1枚ポータル)に今日の授業の気づきを記入すること。

高1コア (問いを立てる) 1年(8)組( )番( )  
教科編第(2)回 ご担当(三井)先生 教科名(現代社会)

(今日の問い)  
①「自分はなぜ学ぶのか」?  
②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか?  
(問いを立てる授業 毎回の授業の大まかな流れ)  
①担当の先生から今日の授業の質問作りの目標、教科の特徴について(1)(12分程度) **情報収集**  
②先生の話に対して質問を作る(10分)【質問作り・前半】  
③担当の先生から前半の質問への回答+教科を学ぶ意味について(2)(10分) **整理・分析**  
④先生の話に対して質問を作る。その回答も交えて話をまとめる(13分)【質問作り・後半】 **まとめ**  
⑤まとめ、今日の気づき記入(5分) **課題設定**  
(注意)上記はモデルです。授業によっては、たとえば①③と④をまとめてもよいです。  
ただし先生の話と質問を作る時間は同じくらいの時間を確保する必要があります。

(今日のミッション)

まわりの力を参考にして質問(問い)を作ることができるようになる。

<質問する内容(例)> 探究テーマ(学ぶ意味)につながる質問がベター

①発表内容についての質問

例)〇〇とはどういうことですか? なぜ〇〇なのですか?

②先生個人への質問

例)いつからその教科が好きでしたか? どんなときにその教科の良さを感じますか?

③教科への質問

例)公園をその教科の目で見ればどんな見え方をしますか?これからその教科が明らかになりたいことは何だと思えますか?

④その他

例)大学でどう使いますか?(役立ちますか?つながりますか?) 今取り組まれている探究テーマは?

(大切なこと!)質問することを意識して話を聞きましょう。その際、先生の言うことを100%肯定的に聞くのではなく、批判的に聞き、上記①~④に当てはまらないCriticalな質問ができる力を徐々につけていきましょう。それが探究テーマにつながります。

<質問作り・前半>

(自分で作った質問) **最低3つ!**

- ・生活とコミュニケーションを大切に作る理由
- ・そこまですべて楽しい授業をしたくない理由
- ・現代社会のおもしろいところ
- ・先生は時間作り、お金おりの生活しているのか?

(まわりの人が作った質問) **最低3つ!**

- ・現代社会が大切だと感じることは何ですか?
- ・(先生)本当に道徳(二)は五の
- ・現代社会はこれか?どう思うのか?

<質問作り・後半>

(自分で作った質問) **最低3つ!**

- ・先生は今の仕事にやりがいを感じているのか?
- ・現代社会の先生としていて本当に活かせることは何なのか?
- ・未来でかむべ(二)は?

(まわりの人が作った質問) **最低3つ!**

- ・現代社会はこれか?長くなったと取り、マスの
- ・未来はこれか?どう思うのか?
- ・道徳(二)は五の

★まとめのプリント(1枚ポートフォリオ)に今日の授業の気づきを記入すること。

高1コア (問いを立てる) 1年(8)組( )番( )  
教科編第(3)回 ご担当(東出)先生 教科名(家庭科)

①「自分はなぜ学ぶのか」?

②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか?

(今日のミッション) 周りの力で質問(問い)を参く作ることができるようになる。

<質問の種類(例)> 探究テーマ(学ぶ意味)につながる質問がベター

①発表内容についての質問

例)〇〇とはどういうことですか? なぜ〇〇なのですか?

②先生個人への質問

例)いつからその教科が好きでしたか? どんなときにその教科の良さを感じますか?

③教科への質問

例)公園をその教科の目で見ればどんな見え方をしますか?これからその教科が明らかになりたいことは何だと思えますか?

④その他

例)大学でどう使いますか?(役立ちますか?つながりますか?) 今取り組まれている探究テーマは?

(大切なこと!)質問することを意識して話を聞きましょう。その際、先生の言うことを100%肯定的に聞くのではなく、批判的に聞き、上記①~④に当てはまらないCriticalな質問ができる力を徐々につけていきましょう。それが探究テーマにつながります。

<質問作り・前半>

(自分で作った質問) **最低5つ!**

- ・先生が考え一人前の木とは
- ・家庭科には男子が受け継ぐべき
- ・(先生)これか?
- ・大学では生かせるのか?
- ・マズローとは何なのか?
- ・家庭科の授業ができたのはいつか?
- ・どう生かせるのか?

(まわりの人が作った質問) **最低5つ!**

- ・家庭科はこれか?
- ・大学では生かせるのか?
- ・マズローとは何なのか?
- ・家庭科の授業ができたのはいつか?
- ・どう生かせるのか?

<質問作り・後半>

(自分で作った質問) **最低5つ!**

- ・女子とは何なのか?
- ・先生は家庭科の勉強が
- ・生活に生かせることはあるか?
- ・料理ができた、用事が長け
- ・木はなぜ女子が高いと言え
- ・のか?

(まわりの人が作った質問) **最低5つ!**

- ・先生が使う女子とは
- ・家庭科が軽視されるわけ
- ・その中で女子に比べが重要か
- ・女子かという言葉の答えは?
- ・なぜ女子かという言葉は正しいのか?

<質問作り・後半>

(自分で作った質問) **最低5つ!**

- ・女子とは何なのか?
- ・先生は家庭科の勉強が
- ・生活に生かせることはあるか?
- ・料理ができた、用事が長け
- ・木はなぜ女子が高いと言え
- ・のか?

★まとめのプリント(1枚ポートフォリオ)に今日の授業の気づきを記入すること。

一人前の木とは? 家庭科が軽視されるわけ? 女子かという言葉は正しいのか?

高1コア (問いを立てる)  
1年(8)組( )番( )  
教科編第(5)回 ご担当(伊藤)先生 教科名(英語)

- (今日の問い)
- ①「自分はなぜ学ぶのか」?
  - ②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか?
- (今日のミッション) 周りの力を借りて質問を書き換えることができる。キャリアとアカデミックな質問に分けた上で書き換える。

\*2つの視点とは?

①キャリア探究の視点: 自分の生き方や進路選択につながる質問。  
→先生がなぜその教科を好きなのか?その教科の魅力は何なのか?自分の希望する進路でその教科はどう使われるのか?など自分の生き方や進路選択の参考になりそうな質問。

②アカデミック探究: 学問の探究につながるような質問。  
→これからの時代のその教科の果たす役割は?その教科でまだ明らかになっていないことは何?など学問の探究につながるような質問。

<質問作り・前半> 2つの視点から質問を作りましょう。

|   |   |
|---|---|
| (自分で作った質問)<br>キャリア探究<br>先生は昔から英語が好きだったのか?<br>留学に行きたいことはありますか? | (まわりの人が作った質問) 最低5つ!<br>キャリア探究<br>ネイティブの会話を聞いてみることはありますか?<br>失声(失笑)する単語を覚えてみたのか?<br>失声(失笑)したエピソードはありますか? |
| アカデミック探究<br>文法は本当に必要か?<br>どうして文法を勉強する必要があるのか?                 | アカデミック探究<br>本日は何に必要か?<br>この教科書は英語以外の言語で書かれているのか?<br>現在英語以外の言語で書かれているものはありますか?                           |

<質問作り・後半> \*可能ならグループで1つ優先順位1番の質問を考えましょう。

|  |   |
|--|---|
| (自分で作った質問)<br>キャリア探究<br>先生が留学に行きたい理由は何ですか?<br>先生は留学に行きたい理由は何ですか? | (まわりの人が作った質問) 最低5つ!<br>キャリア探究<br>留学はどのくらい大変ですか?<br>なぜ先生は留学に行きたいのですか?<br>アメリカはどんな国ですか? |
| アカデミック探究<br>英語はエッセイからどうやって書くのか?<br>先生はエッセイを書くのが好きですか?            | アカデミック探究<br>本日は何に必要か?<br>本日は何に必要か?<br>本日は何に必要か?                                       |

最初の問い:「留学に行きたい理由はありますか?」

書き換えた問い:「留学に行きたい理由はありますか?」

高1コア (問いを立てる)  
1年(8)組( )番( )  
教科編第(4)回 ご担当(吉留)先生 教科名(保健体育)

- (今日の問い)
- ①「自分はなぜ学ぶのか」?
  - ②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか?
- (今日のミッション) 優先順位が1番の質問を決める

\*優先順位の高い質問とは?

→ 一般的には以下の質問の答えとなる質問。  
「**一つしか質問できなけれど、どれを質問したいですか?**」  
→ 今回は探究テーマ(学ぶ意味を考える)が決まっているので、探究テーマにつながる質問が、優先順位が高い質問。  
例) 教科を学ぶ意味と関わる質問、学ぶ意味に気づけそうな質問

<質問作り・前半> 分類を意識しながら作り、その後優先順位を決めましょう。

(復習) 質問の種類 ①発表内容についての質問 ②先生個人への質問 ③教科への質問 ④その他

|  |  |
|--|--|
| (自分で作った質問)<br>① スポーツをやっていることについて、どのようになりたいか<br>② 「人間・福祉」の科目を履修して、(得意)になりたこと<br>③ 先生は、どの教科が好きですか?<br>④ 先生は、どの教科を履修したいですか?<br>⑤ 先生は、どの教科を履修したいですか? | (まわりの人が作った質問) 最低5つ!<br>先生の履修理由を教えてください<br>先生は、どの教科を履修したいですか?<br>先生は、どの教科を履修したいですか?<br>先生は、どの教科を履修したいですか? |
|--|--|

<質問作り・後半> グループで1つ優先順位1番の質問を決めましょう。

|   |  |
|---|--|
| (自分で作った質問) 最低5つ!<br>体育は授業のどの部分が好きですか?<br>体育は授業のどの部分が好きですか?<br>体育は授業のどの部分が好きですか? | (まわりの人が作った質問)<br>1番授業を好きなのは、どの部分ですか?<br>1番授業を好きなのは、どの部分ですか?<br>1番授業を好きなのは、どの部分ですか? |
|---|--|

\*自分の作った質問で優先順位が1番の質問に線を引いて、なぜそれを一番にしたのか下の( )内に書きましょう。それを質問しましょう。

理由 (先生は、どの教科を履修したいですか?)

1年(8)組( )番

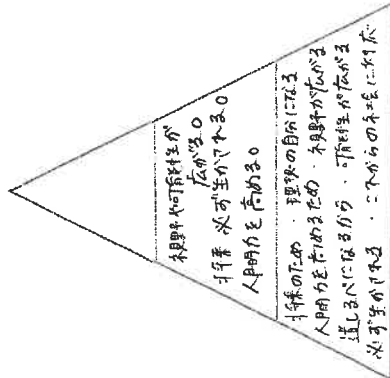
教科編第(6)回 ご担当(\*\*)先生 教科名(まとも)

### 今日の問い：自分にとっての学ぶ意味とは？

本時の目標【課題設定】：ピラミッドチャートを作成させ、最後のまともを全行書ける。

準備：ピラミッドチャートについて

ピラミッドチャート：集めた情報を整理し、それをもとに自分の主張を作る助けとなる思考ツール。



＜ピラミッドチャート＞

上段：中段の情報を元に、自分なりの考え・主張を書く。

中段：下段の情報の中から、大事だと思うもの、テーマにつながるようなものを選んで書く(3つ程度)。複数の組み合わせでも良い。

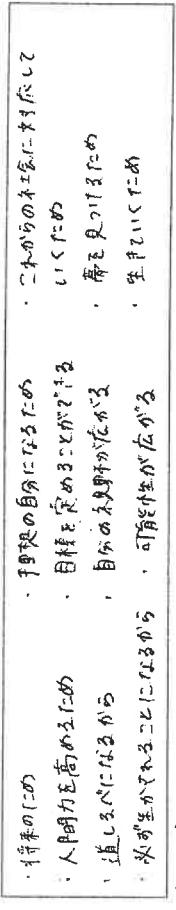
下段：集めた情報(学ぶ意味)を書く。

例：下の9つの情報をもとに、上段1つ、中段2つ、下段6つに分類しよう。(テーマは文化祭でクラス企画をする想定)。

楽しい思い出作り、クラスで仲良く遊ぶ、カッパルが増える、授業では覚えがちなこと、計画を立てる力がつく、コミュニケーション、コミュニケーション、チーム作り

(1) ピラミッドチャートを使って自分が学ぶ意味を考える

①前回までの教科の話を思い出して自分が教科を学ぶ意味を10個程度書きましょう。



次ページのピラミッドの下段にその中から6つを書きましょう。

② ①を見て、中段に自分が教科を学ぶ意味を3個書きましょう。

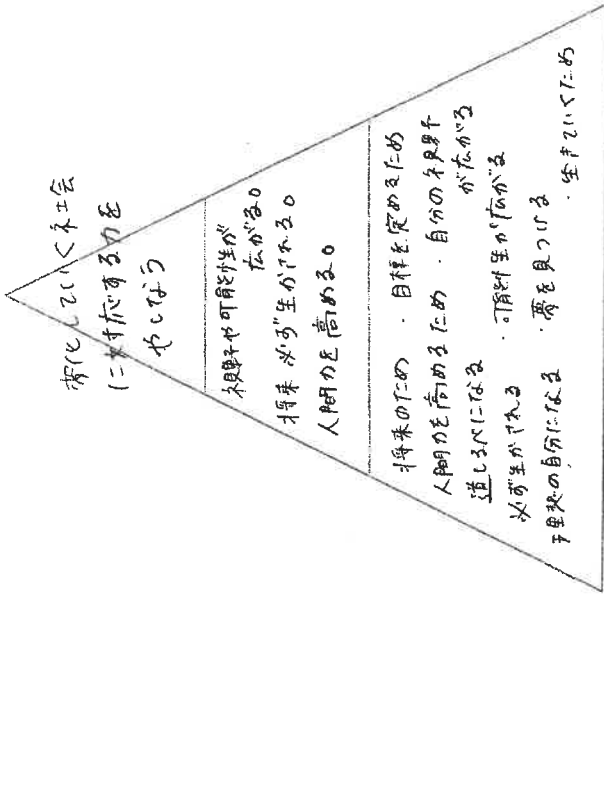
下段から特に自分にとって大事だと思ったものを選んで、下段の言葉を組み合わせてもOKです。

(2) ピラミッドチャートを使って自分が学ぶ意味を考える

③ 中段の情報を元に、自分なりの学ぶ意味を1つだけ上段に書きましょう。

(今日のまともでこれを文章にします)

探究はもちろん、ピラミッドチャートという思考ツールも使えるようになります。



(今日のまとも+問いを立てる授業のまとも)

★上の(2)で書いたことを文章にしましょう。(金行うめましよう)

私が考えた学びの意味は、文化祭で仲良く遊ぶこと、カッパルが増えること、計画を立てる力がつくこと、コミュニケーション、コミュニケーション、チーム作り

授業の目的・理解の深まり

人間的な高み

道徳性

視野が広がる

視野が広がる

人間的な高み

道徳性

★新たに生まれた疑問は(新たな課題設定)

私は、授業の自分の可能性が広がること、そして、授業の目的・理解の深まり、人間的な高み、道徳性、視野が広がること、カッパルが増えること、計画を立てる力がつくこと、コミュニケーション、コミュニケーション、チーム作り

授業の目的・理解の深まり

人間的な高み

道徳性

視野が広がる

視野が広がる

人間的な高み

道徳性

★今日の感想、問いを立てる授業全体の感想

「学び」は、授業の自分の可能性が広がること、そして、授業の目的・理解の深まり、人間的な高み、道徳性、視野が広がること、カッパルが増えること、計画を立てる力がつくこと、コミュニケーション、コミュニケーション、チーム作り

授業の目的・理解の深まり

人間的な高み

道徳性

視野が広がる

視野が広がる

人間的な高み

道徳性

問いを立てる授業・まとめ (1枚ポートフォリオ)

1年(8)組( )番( )

★毎回の授業の気付きをこの用紙にまとめて、自分の考えを蓄積していきます。

| 回<br>日程    | 担当の先生と<br>教科 | 授業の感想   | 学ぶ意味について新しく気づいたこと   |
|------------|--------------|---|---|
| ①<br>10/28 | 三井先生<br>現代社会 | 授業の進め方が新鮮でおもしろかった。10年時に、拍手で始めるといのは全員が1人になったように、先生が大事にしていることがよくわかりました。       | 社会は、いろいろな世の中であらゆることを取り入れて、特許や著作権や著作権といった権利や利益のバランスを調整している中であらゆる利益を調整している。また、著作権や著作権といった権利や利益のバランスを調整している。 |
| ②<br>11/4  | 東出先生<br>家庭科  | 家庭科は、本も結構本数だと思っていて、一番生かして生きていくことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。    | 家庭科は、2人からの生活の中で、生かせることが多く、いろいろなことがあり、いろいろなことを考えていくことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。              |
| ③<br>11/11 | 吉留先生<br>保健体育 | 自分の考えに合った理由などがあり、いろいろなことを考えていくことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。    | 体育は、人間関係の成長を促すために、いろいろなことを考えていくことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。                                 |
| ④<br>11/18 | 伊藤先生<br>英語   | 英語の文法は少し苦手でありますが、やっぱり大事だということを知ることが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。  | 英語は、2人からの社会人にならなければ、絶対に必要なスキルだと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。  |
| ⑤<br>10/21 | 主任の先生<br>情報  | 情報科は、これからの日本にとっても、役に立つから、その重要性を学ぶことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。 | 2人からのデジタル社会で、情報科が生かされていくことが、人生の中で一番大事だと思っていて、今の生活を自覚していきたくて思っています。  |

★自分が学ぶ意味は以下の通り。(最後に記入。CSLでの学びもふまえて書く)

変化していく社会に文字力や五感を鍛えたい。



## 2020年度高校第1学年「コア探究」のまとめ

立命館宇治高等学校第1学年

2020年度は高校1年コア探究の3年目の年である。新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で4月当初から休校期間が生じる困難から始まったが、学びの主体や課題（問題）解決の主体を育成する大きな目標に向けて教科横断的な学習を進めている。実施主体であるスタッフの経験値が低いことから、過去2年の実践に学びながら、2020年度は1学期の早い段階で株式会社鹿島建設が作成した高校生向けの探究学習教材を導入したことが特徴である。第2学期はこれに続き、「学びと問い」をテーマにして学ぶ意味を考えながら「問い」について考え、「問い」を立てるスキルの向上を目指した。最終的なアンケートから、3~4割の生徒がコアの学びを教科活動や学校生活につなげるに至った。

### 1 2020年度高校1年コア探究のコンセプト

高校1年コア探究の授業は2018年から開始されたが、生徒の21世紀型学力の一端の育成を目指し、「消費者モデルから生産者モデルへ」のフレーズを象徴に、個人の主体的な学びや行動を促すことを目指した。同時にコア探究の授業に関わる教員（主に担任）について、授業の目的に合致する指導方法の研究や指導力の向上を目指すと共に、それによって教員自身の従来型学力観や従来型の学習指導からの変化をもたらすものと期待されてきた。そして、その実際として過去2年の総括では、生徒たちの意識の変化の一端や指導に関わった教員からの肯定的な感想が寄せられた。

改めて紹介するまでもなく21世紀型学力は国立教育学研究所が2013年に整理して示したもので、「基礎力」を土台にして「思考力」を中核としながら、その使い方を「実践力」として方向づけている。過去2年の授業では、コア探究の学習で、ものごとの本質を多角的視点から理解し、そこに内在する課題や根本的な対立矛盾などを掘り起こし、そこから問いを自分の言葉で立てることで、事象の本質を自分の言葉で再構成することを求めている。そして、その課題（問題）解決の方法を模索する。こうした一連のプロセスはD.A.Kolbの経験学習理論にも通じる。Kolbは以下のようなサイクルを「学習サイクル」と呼んだ。

具体的経験：具体的な経験をする。

省察：経験を多様な観点から振り返る。

概念化：他の状況でも応用できるように、一般化、概念化する。

試行：新しい状況下で実際に試す。

さらにこのような「学習」に不可欠なことは、サイクルを回すことを客観視する力であり、この点ではメタ認知の能力が重要な鍵となる。

そして、自己の成長を促し主体的な行動する集団的な姿を「主体形成」という概念で捉えるならば、コア探究における「主体形成」は「教科横断的なコア探究の学びを通じて、身の回りの様々な課題を認識し、その解決のビジョンを学びの仲間と共有し、自己の成長とともに、創造的な活動の担い手となる集団が形成された状態」のように定義されるだろう。そしてこのような主体形成が高校1年段階で目指すべきコア探究の目標の姿である。

## 2 2020年度高校1年コア探究の学習内容

2018年度に始まったコア探究の学習も3年目を迎え、過去2年の学習内容を振り返り、総括した上でのブラッシュアップの年度となった。主体形成を大きな目標に探究学習の、導入から活用までを目指すこの授業では、年間計画の前半部として、できるだけ身近なテーマから課題（問題）解決について考えることを基本にし、課題（問題）解決のための方法論や技術、即ちスキルやツールについても学習するものとした。またそれらの学びで得たものを実際の課題解決に活用することも目指した。

年度の中後半部である第2学期には進路選択を視野に入れながら、「問い」を発見したり「問い」を立てるかたちで、学びの目的や意義を再考させることや「問い」を立てるスキルの向上を目指した。

コア探究における各授業では、それぞれの回でテーマ設定をし、それぞれのテーマに個人的にかつ集団的に検討して学習を進め、具体的には個人で考える時間と集団で考える時間を確保する。集団での活動ではグループトーク形式の対話の場面がそれに相当する。また、ここでの「対話」は個人で解決が困難な課題（問題）について、集団的な検討によってよりよい解に近づくものを言う。そしてその際には課題（問題）解決のための検討場面や対話の場面ではそれらをサポートするツールが不可欠である。ビジネスの場面でよく知られている様々な表や図を用いることで効率的な思考や対話が進む。高校1年生という学齢では、ツールについての基礎知識が不足している為に1学期の段階でそれらのうちのいくつかを紹介することとした。ブレインストーミングにおけるマインドマップをはじめとする基本的なツールのいくつかは後述の株式会社鹿島建設が高校生向けに作成した探究教材を利用することで、その紹介が一定達成された。

## 3 2020年度第1学期～2学期前半の実施概要

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて4月当初より休校措置がとられ、大きく年度計画の変更を余儀なくされた。実際には4月中は通常の授業は行われずに、新1年生は課題学習となった。その期間に準備された遠隔オンライン授業が5月の連休明けから実施されたが、オンライン授業は通信環境等種々の事情により1授業あたり30分という短いものとなった。下表では初回からの実施内容が掲載されているが、第2回までが30分のオンラインによるもので、第3回以降が教室での対面実施となった。第3回までの内容は導入教材として行った。第4回以降は後述の株式会社鹿島建設の提供する探究学習教材を用いた。その導入にあたっては主任を通じて業者担当者との連携とともに教員向けの事前学習会を実施して準備した。

表：2020年度前半期コア探究授業実施状況（7月29日現在）

| 回  | 日程       | 内容                          |
|----|----------|-----------------------------|
| 1  | 5月13日（水） | 探究オリエンテーション（Online）         |
| 2  | 5月27日（水） | 探究「学ぶスキル」（Online）           |
| 3  | 6月10日（水） | 探究「新型コロナ禍下で学ぶ」              |
| 4  | 6月17日（水） | 鹿島建設提供教材第1回目（導入）            |
| 5  | 6月24日（水） | 地域モジュール①丸の内モジュール1           |
| 6  | 7月1日（水）  | 地域モジュール②丸の内モジュール2           |
| 7  | 7月8日（水）  | 地域モジュール③女川モジュール1            |
| 8  | 7月15日（水） | 学校祭（興風祭）企画検討（コアの学びを活かして考える） |
| 9  | 7月22日（水） | 地域モジュール④女川モジュール2            |
| 10 | 7月29日（水） | 地域モジュール⑤羽田空港モジュール1          |

### 3.2 鹿島建設提供探究学習教材

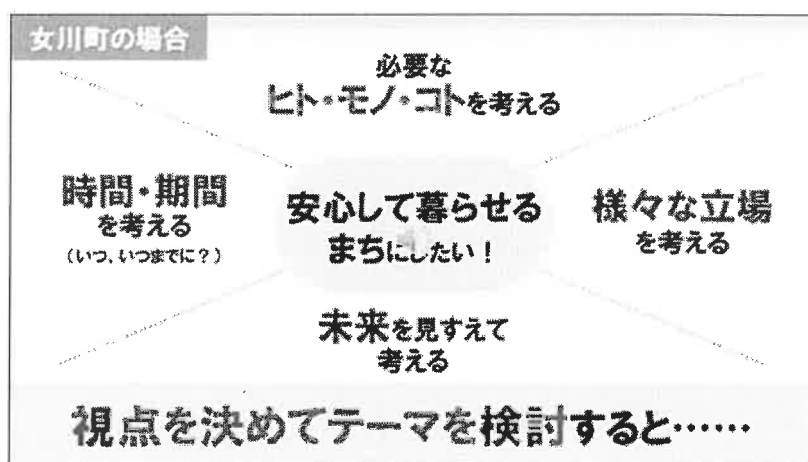
鹿島建設が開発した、「未来の社会を考える探究型プログラム『100年を創造するチカラ』」と題する教材は、鹿島建設が2022年度から始まる高等学校の新学習指導要領に基づく総合的な学習の時間での活用を意図したものである。そこでは建設会社として1840年の創業以来、長い歴史を持ち、現場での課題解決の中で培ったノウハウが活かされている。提供された教員向け指導書の冒頭には「建設プロジェクトは課題解決や挑戦の連続であり、しかしそれをどうやって乗り越えていくのが醍醐味でもあります」と記されている。そして大きなプログラムコンセプトとして、「鹿島建設のプロジェクト＝実社会の課題解決を題材に未来の社会をつくるチカラを身につけることをねらいとしています」と記されている。基礎編の内容は大きく3つのモジュールとして分割され、またそれぞれが授業時間を想定して2つのパートに分けられている（下表参照）。

表：鹿島建設提供教材の概要

| 回<br>(通算) | テーマ                   | 担当 (モジュール名) | ねらい   | スキル<br>ツール               |
|-----------|-----------------------|-------------|---|--------------------------|
| 1(4)      | 鹿島建設提供教材<br>第1回目(導入)  | 稲葉          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●電話機の変化を調べることを通して、課題を解決することで、モノや技術が進化し、暮らしが便利になっていることを理解する。</li> <li>●社会は、未来を見すえ課題を解決することで発展してきたことを実感し、自分で未来をつくること、そのために大切にしなければならないことは何かを考えることに興味・関心を高め、プログラムに取り組む意欲を持つ。</li> </ul> | 時系列チャートによって物事の移り変わりを考える  |
| 2(5)      | 地域モジュール①<br>丸の内モジュール1 | 三井          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●伝統継承モジュール－東京駅丸の内駅舎保存・復原プロジェクト－についての情報を収集・整理する。</li> <li>●保存・復原プロジェクトの課題と解決策について表を使って整理することを通して、情報を整理する力を育成する。</li> </ul>  | 表を使って課題と解決策を整理する         |
| 3(6)      | 地域モジュール②<br>丸の内モジュール2 | 吉留          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●保存・復原プロジェクトでは、技術を継承し、安全・安心(免震)の対策をすることで、伝統を未来に引き継ぐことができたことを確認する。</li> <li>●課題と解決策を整理した表から、原因・背景を関連づけて分析することを通して、情報を整理・分析する力を育成する。</li> </ul>  | 表を使って課題と解決策を整理する         |
| 4(7)      | 地域モジュール③<br>女川モジュール1  | 松崎          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりには、様々な立場・そこに住む人の想いを大切にすることが必要であることを理解する。</li> <li>●自分のまちが「魅力的なまち」であるために大切なことについてイメージマップを使って考えを広げることを通して、課題を設定する力を育成する。</li> </ul>  | イメージマップを用いて考えを広げる        |
| 5(9)      | 地域モジュール④<br>女川モジュール2  | 小久保         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりには、様々な立場・そこに住む人の想いを大切にすることが必要であることを理解する。</li> <li>●自分のまちづくりの課題を、Xチャートを使って検討することを通して、課題を設定する力を育成する。</li> </ul>  | Xチャートを用いて4つの視点からものごとを考える |

|       |                        |    |  |                            |
|-------|------------------------|----|--|----------------------------|
| 6(10) | 地域モジュール⑤<br>羽田空港モジュール1 | 中村 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●開発には周囲の人や環境に影響が伴うこと、その影響に配慮しながら開発を行うことの重要性を理解する。</li> <li>●情報をKJ法的な手法を使って分類し、プレゼンテーションの内容を考えることを通して、情報を整理・分析する力を育成する。</li> </ul>   | KJ 法的な手法を使って分類整理する         |
| 7(11) | 地域モジュール⑥<br>羽田空港モジュール2 | 伊藤 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●開発には周囲の人や環境に影響が伴うこと、その影響に配慮しながら開発を行うことの重要性を理解する。</li> <li>●プレゼンテーションの作成において、ストーリーボードを使って検討することを通して、まとめ・表現する力を育成する。</li> </ul>  | ストーリーボードを用いてまとめ・表現する力を育成する |
| 8(13) | 鹿島建設教材モジュールのまとめ        | 稲葉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●これまでの学習をふりかえり、未来の社会をつくるために必要なことについて、自分なりの考えをもつ。</li> <li>●学んだことをふまえ、未来の社会をつくるために、自分はどんなことを大切にしていくなか、意思を表示する。</li> <li>●1枚のワークシートに学習をまとめることを通して、自分の考えの変容や、学ぶ方法についてふりかえる。</li> </ul> | ポートフォリオ                    |

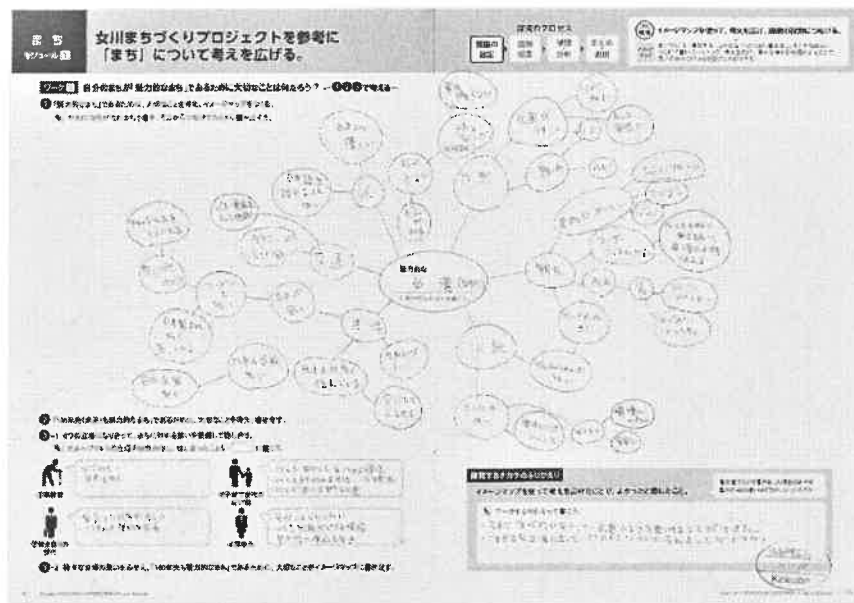
実際の授業では、導入とまとめを主任が担当し、それぞれのモジュールのパートをモジュールマスターとして分担した。また授業は鹿島建設の提供するスライドを基に実施したが、各時間のスライドにはモジュールマスターが説明文を付加し、それを音声変換したものを作成した。これによって各担任の説明のプレを無くすことができた。スライドは水曜日の授業に合わせて、その週の月曜日までには各担任に配信された。



「安心して暮らせるまちにしたい!」という女川に住む人々の想いに答えるために、いつ、どのような視点で課題を解決しようとしたか、理解できましたか。周囲の友達とメモ内容を共有し確認してください。

この動画で紹介された4つの視点とは、①必要なモノやヒト、コトは何か、②工事の計画と時間管理、③様々な立場の人たちの要望を考慮すること、④将来にわたってまちの魅力となることとは何か、であり、これらの4つの視点から課題を解決しようと決め行動に移したのでしたね。このような視点をきめてテーマを検討するとどのような利点があるのでしょうか。ここで少し時間をとりますので、「どのような利点があるのか」周囲の友達と話し合ってください。

図：スライドに説明文が付加された様子（実際にはこれが音声変換され自動で読み上げられる）



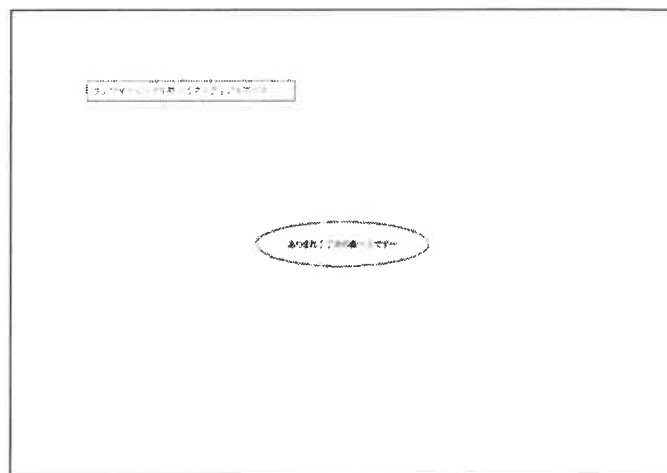
図：生徒の取り組みの様子（生徒のワークシートから）

### 3.3 コアの学びを実際の学校生活に活かす活動

この教材では、テーマの中に考えるべき課題が提示され、その解決策を探る上で、活用できるスキルやツールが上手く埋め込まれている。探究学習のひとつの側面として課題解決の方法に関する基礎的な手法の習得という面がある。この点においては「考えを整理する表」「視野を広げるイメージマップ」「考える視点を多角化するXチャート」「考えをまとめ・表現するポートフォリオ」などのツールや「ブレストにおける発想の整序のためのKJ法」などのスキルがその都度紹介され、実際にそれらを活用する時間が設けられるメリットは大きい。

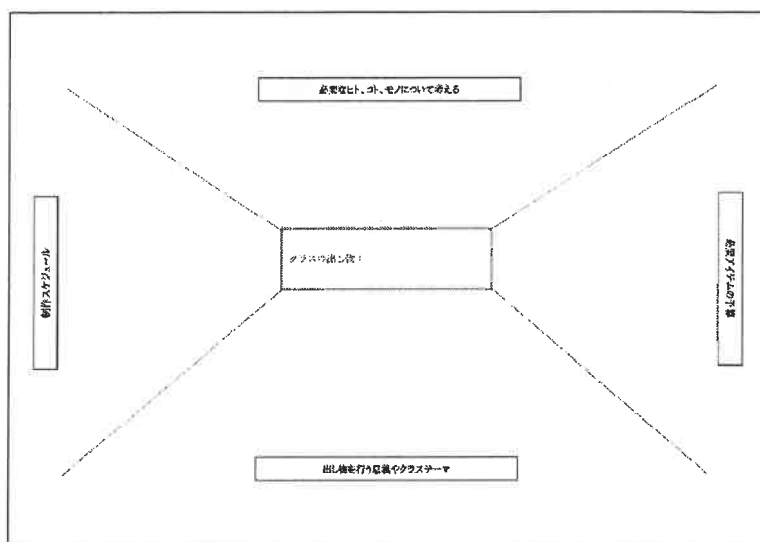
そして探究学習で学んだスキルや活用したツールを実際の学校生活の中に活かすという意味で、モジュール学習の途中で学校祭の企画についての話し合いの時間を設けた。イメージマップを用いてアイデアを広げたり、Xチャートを用いて同時多角的に計画する必要性を視覚的に訴えた。

学びのひとつの形態として、国語や英語などの一般教科の学習の一部としての「覚える」ではなく「使うこと・慣れること」が総合的な学習では必要となる。その意味において学んだ事柄を自分たちの課題解決に役立つ活動をし、身近な学校祭を題材に行ったことは学校祭の準備も兼ねて有益であった。



図：学校祭に向けた企画検討のためのイメージマップ

実際には下図のような「必要なコト、モノについて考える」「製作スケジュール」「出し物を行う意義やクラステーマ」「必要アイテムの予算」の4項目を同時に考えさせるためのXチャートを用いて学校祭におけるクラス企画について三十余名のクラス全員がそれぞれのXチャートを作成して、その内容を代表委員がまとめる形で議論が進んだクラスがあった。



図：学校祭を検討する上でのツールとしてのXチャート

#### 4 2020年度第2・3学期の概要

2020年度の2学期は例年と異なり新型コロナウイルス感染症による休校措置の回復として8月20日過ぎより開始された。コア探究の授業の内容は1学期の続きから始まり、その後2学期の中心テーマである、「学びと問い」に移行した。

2学期の教材はコア探究開始以来、学び問いをテーマとして、学ぶ意味を問い直すことから始めている。またここでは「問いの立て方」を知ることや、「問いを立てる」ことに慣れることも兼ねた。最終的にはまとめの回で「問い」を立てる活動を日常生活や学びに活かすことをテーマとした。各教科の学習をこれまでの問題集中心の反復学習から、問いを自ら立てて考えることを訴えた。現代文の評論文の読解問題を例示しながら、指示語が具体的に何を指すかをチェックしながら（問いながら）読み解くという実習場面も採り入れた。概念型カリキュラムでは、知ること、理解すること、できるようになること、の3つが柱とされている。コア探究の授業では、各教科に跨がるテーマを設定し、そのことを学びながら、できるようになることを目指す点では、この形式でのカリキュラム構成にも適合する。「問い」を立てることはどのようなことか、という初歩的な段階から、様々な「問い」を実際に立てながら「問い」の姿を理解し、「問い」によって思考が深められていくことを目指した。

12月の中旬には3学期のコア探究の中心的内容に関わり、地域課題の解決の実践として宇治市植物公園の入場者数の引き上げプロジェクトに取り組み始めた。この企画はCLSの授業とのコラボとして扱い、探究学習の実践として位置づけられた。植物公園の園長を招き、実情と課題をお伝えいただき、その講演会をキックオフとしてCSL、コア探究の時間を使って入場者数の増加を目指すプロジェクトとして3月のポスタープレゼンテーションを目指した。各クラスでのグループ別で解決策を模索したが、その際には1学期に学習したイメージマップや表によって比較検討する手法が積極的に採用された。

## 4.2 2020 年度第 2・3 学期の授業

2020 年度は休校期間の授業回復のため例年より 1 週早く開始された。コア探究の授業は学校行事の他には予定通り実施された。授業の実施状況は下表の通り。

表：2020 年度第 2・3 学期コア探究授業実施状況

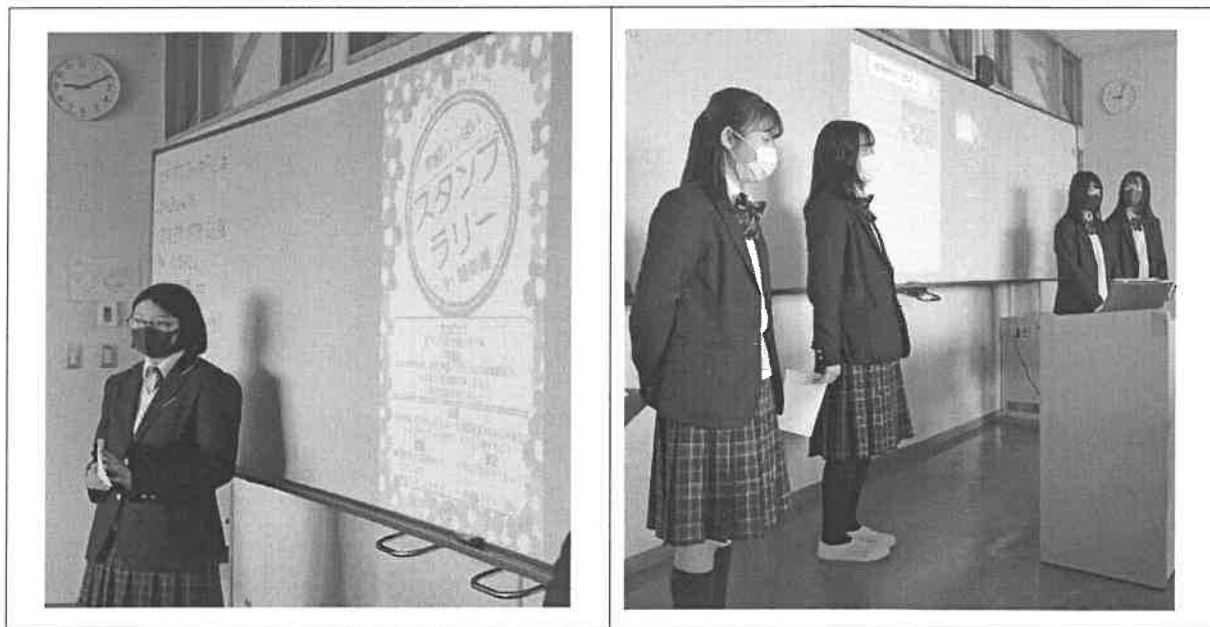
|    |               |                                  |
|----|---------------|----------------------------------|
| 11 | 8 月 26 日 (水)  | 鹿島教材地域モジュール⑥羽田空港モジュール 2          |
| 12 | 9 月 2 日 (水)   | 学びみらい Pass 講演会                   |
| 13 | 9 月 9 日 (水)   | 鹿島建設教材モジュールのまとめ                  |
| 14 | 9 月 16 日 (水)  | 探究「学びと問い」① [主任]                  |
| *  | 9 月 23 日 (水)  | 興風祭準備日                           |
| 15 | 9 月 30 日 (水)  | 探究「学びと問い」② [主任]                  |
| 16 | 10 月 7 日 (水)  | 科目選択について (学園と立命館大学)              |
| *  | 10 月 14 日 (水) | 中間考査                             |
| 17 | 10 月 21 日 (水) | 探究「学びと問い」③ (全体会 & 教科編 1)         |
| 18 | 10 月 28 日 (水) | 探究「学びと問い」④ (教科編 2)               |
| 19 | 11 月 4 日 (水)  | 探究「学びと問い」⑤ (教科編 3)               |
| 20 | 11 月 11 日 (水) | 探究「学びと問い」⑥ (教科編 4)               |
| 21 | 11 月 18 日 (水) | 探究「学びと問い」⑦ (教科編 5)               |
| 22 | 11 月 25 日 (水) | 探究「学びと問い」⑧ (教科編まとめ)              |
| *  | 12 月 2 日 (水)  | 期末考査                             |
| 23 | 12 月 9 日 (水)  | コア探究 2 学期のまとめ                    |
| 24 | 12 月 16 日 (水) | 植物公園プロジェクト講演会 (6 限 CLS 全体会として実施) |
| 25 | 1 月 13 日 (水)  | 植物公園プロジェクト①                      |
| 26 | 1 月 20 日 (水)  | 植物公園プロジェクト②                      |
| 27 | 1 月 27 日 (水)  | 植物公園プロジェクト③                      |
| 28 | 2 月 3 日 (水)   | 植物公園プロジェクト④                      |
| 29 | 2 月 17 日 (水)  | 植物公園プロジェクト⑤                      |
| 30 | 2 月 24 日 (水)  | コア探究年間まとめ                        |

探究「学びと問い」教科編は、第 1 回を主任が情報科の学びを主題として実施し、授業の進め方や「問い」の立て方などを概説する回とした。第 2 回以降は各クラスにローテーションで 4 名の担任または副担任が入り、各自の専門教科についての話を聞く会とした。2018 年度と 2019 年度は IG コースの担任全員の話を聞くプログラムであったが、全体会 1 回、各教科から 4 回、まとめを 1 回の構成とした。学びと問いのテーマ全体では、これに「文系と理系」や「問いとは何か」を加えた構成となった。2020 年度の大きな特徴として、副担任の 2 名が教科編に加わったことであった。担任だけのコア探究からの教員への広がり考えたのははじめの一歩となった。実施後のアンケートからは、多くの生徒が教員の話に興味深く聞き、問いを立てるスキルが向上する意識を持ったことがわかった。

12 月以降は先述した植物公園プロジェクトを CSL とのコラボ企画として進めた。身近な地域にある身近な課題の解決プロジェクトとして、課題解決のスキルを応用する場ともなった。

各クラスでのポスター発表会を経て、IG コース全体で 8 本の優秀作品を選び、3 月に植物公園にて発表会を

実施した。



図：クラスポスター発表の様子

## 5 第1学期・第2学期実施後のそれぞれの生徒の状況

5.1 2020年7月末段階で鹿島建設教材のモジュールを1つ残した段階で生徒に行ったアンケートの結果を下表に示す。n=266で回答率は94.7%であった。

| 番号  | 質問内容   | 選択肢                     | 数   |
|-----|--|-------------------------|-----|
| 質問1 | コア探究の授業の内容は興味深いですか   | 興味深い                    | 67  |
|     |  | どちらかというに興味深い            | 149 |
|     |  | どちらかというに興味深くない          | 43  |
|     |  | 興味深くない                  | 7   |
| 質問2 | コア探究の授業では国語や数学などの教科にとらわれない、ものごとの見方や考え方を扱っています。傍観者でなくさまざまな課題に積極的に関わり課題解決をする姿を求めています。このような態度は大切だと思いますか | とても大切だと思う               | 177 |
|     |  | どちらかというに大切だと思う          | 83  |
|     |  | どちらかというに大切だと思わない        | 6   |
|     |  | 大切だとは思わない               | 0   |
| 質問3 | 先の質問2で、実際に1学期が終わる段階で自分の姿勢をどのように評価しますか  | 積極的に課題解決に取り組むことができた     | 79  |
|     |  | 自分のできる範囲で課題解決に関わることができた | 171 |
|     |  | あまり課題解決に関わることができなかった    | 15  |
|     |  | 問題解決を意識することがなかった        | 0   |
| 質問4 | コア探究の授業では様々な課題について自分で考えたり他者と議論することで課題解決を目指します。他者と議論することで考えが深まったりアイデアが膨らんだりするメリットを感じられますか。            | メリットが大きいと思う             | 175 |
|     |  | どちらかというにメリットがあると思う      | 87  |
|     |  | どちらかというにメリットがないと思う      | 2   |
|     |  | メリットがないと思う              | 1   |
| 質問5 |  | 自分の状況を深く振り返るようになった      | 72  |



|     |  |                          |     |
|-----|--|--------------------------|-----|
|     | コア探究の授業を受けることで他の科目の学びやクラブ活動をする上で自分の姿を見る姿勢に積極的な変化はありましたか  | 自分の姿をたまに振り返ることができるようになった | 152 |
|     |  | ほとんど自分の姿を振り返ることができていない   | 35  |
|     |  | 自分の姿を振り返ることをしたことがない      | 7   |
| 質問6 | コア探究では様々な思考のスキルや思考や議論のためのツールが紹介されています。このようなスキルやツールの知識の獲得は有用だと思いますか   | とても有用だと思う                | 181 |
|     |  | どちらかというとう有用だと思う          | 82  |
|     |  | どちらかというとう有用だとは思わない       | 3   |
|     |  | 有用だとは思わない                | 0   |
| 質問7 | 高校1年生の総合的な学習の時間はコア探究とCSLに分かれています。コア探究では学習のスキルや課題解決の手法などを学んでいます。一方でCSLでは自己を見つめたり将来に結び付く高校生や社会人としてのマナーや在り方などを学んでいると思います。コア探究とCSLの違いはわかっていますか | 区別がきちんとついている             | 131 |
|     |  | まあまあ区別がついている             | 126 |
|     |  | あまり区別がついていない             | 8   |
|     |  | そもそも区別があるのかわからない         | 1   |

選択肢4つのうちはじめの2つを肯定的回答ととらえた場合、すべての質問について二項検定において有意水準1%で有意差ありとなった。とりわけ質問2, 6ではカイ2乗検定において積極的肯定が有意差あり、という結果となった。この結果からは生徒がコア探究の学びで学ぶ課題解決が他の分野でも重要であるという意識を持っていることや、思考のスキルやツールの学びの意義を感じていることを示すものと言える。

また自由回答での「コア探究で学んだ内容で特に印象深かった内容を簡単に記入してください」の質問に対する回答の一部を資料として添付した。

5.2 教材終了後の9月末に実施された学校祭では各クラスでの工夫の求められる展示企画が高校1年生が取り組む内容であった。学校祭後に実施した簡易なアンケートでは特に主体的な意識や課題解決の学習が活かせたかを問うた(n=267)。結果としては概ね3/4が主体的に参加をし、課題解決の智恵を活かすことができたと回答した生徒は4割を超えた。

| 番号  | 質問内容   | 選択肢                  | 数   |
|-----|--|----------------------|-----|
| 質問1 | 学校祭のクラスの取り組みに主体的に参加できましたか                          | 参加できた                | 211 |
|     |  | どちらかと言えば参加できた        | 50  |
|     |  | どちらかと言えば参加できなかった     | 5   |
|     |  | 参加できなかった             | 1   |
| 質問2 | 学校祭のクラスの取り組みでは探究授業(IGコースはコア探究)で学んだ課題解決の智恵が活かされましたか | 活かすことができた            | 121 |
|     |  | どちらかと言えば活かすことができた    | 105 |
|     |  | どちらかと言えば活かすことができなかった | 31  |
|     |  | 活かすことができなかった         | 10  |

5.3 2020年12月末段階で生徒に行ったアンケートの結果を下表に示す。n=274で回答率は96.8%であった。

| 番号  | 質問内容                                     | 選択肢           | 数   |
|-----|--|---------------|-----|
| 質問1 | 1学期の鹿島建設の学習教材を終え、学びと問いについて考えてきた2学期のコア探究の | 深まった          | 188 |
|     |  | どちらかというとう深まった | 81  |

|     |  |                       |     |
|-----|--|-----------------------|-----|
|     | 授業を振り返ったとき、コア探究の授業で、学ぶ意味が深まりましたか。                              | どちらかというと深まらなかった       | 4   |
|     |  | 深まらなかった               | 1   |
| 質問2 | 学びと問いを考える上で、「問い」を立てることをキーワードに授業を進めてきました。問いを立てるスキルは向上したと思いますか。  | 向上した                  | 169 |
|     |  | どちらかというと向上した          | 103 |
|     |  | どちらかというと向上しなかった       | 1   |
|     |  | 向上しなかった               | 1   |
| 質問3 | 問いを立てることで、受け身にならない話の聞き方を学んだと思います。この活動を通じて、話を聞く能力は高まったと思いますか。   | 高まった                  | 187 |
|     |  | どちらかというが高まった          | 83  |
|     |  | どちらかというが高まらなかった       | 4   |
|     |  | 高まらなかった               | 0   |
| 質問4 | 最終的には問いを立てることを日々の学習に活かそう、という話をしました。問いを立てる活動が自分の学び方に良い影響を与えますか。 | そう思う                  | 200 |
|     |  | どちらかというそう思う           | 68  |
|     |  | どちらかというそう思わない         | 6   |
|     |  | そう思わない                | 0   |
| 質問5 | 多くの先生を人生の先輩として、教科の魅力やかかわりを語っていただきました。先生方の話は興味深かったですか。          | 興味深かった                | 188 |
|     |  | まあまあ興味深かった            | 76  |
|     |  | あまり興味を持てなかった          | 9   |
|     |  | まったくつまらなかった           | 1   |
| 質問6 | 全体として2学期のコア探究の学習は意義深いものでしたか                                    | 意義深いものだった             | 190 |
|     |  | どちらかという意義深いものだった      | 78  |
|     |  | どちらかというあまり意義深いものでなかった | 6   |
|     |  | 意義深いものではなかった          | 0   |

結果の評価は数値的に肯定的評価が否定的な評価を上回るものとなった。「学びと問い」を中心テーマとして実施した結果として、質問4における「問い」を日頃の学びに良い影響を与えそうだという予感を多くの生徒が感じている。今後の学びの変化に具体的にどのように結びつけ、どのように評価するか課題である。

5.4 2021年2月末段階で生徒に行った最終のアンケートの結果を下表に示す。n=276で回答率は97.5%であった

| 番号  | 質問内容               | 選択肢          | 数   |
|-----|--------------------|--------------|-----|
| 質問1 | コア探究の授業は興味深いものでしたか | とても興味深かった    | 121 |
|     |                    | 少し興味深かった     | 131 |
|     |                    | あまり興味深くなかった  | 21  |
|     |                    | まったく興味深くなかった | 3   |
| 質問2 | コア探究の授業は有意義でしたか    | とても有意義だった    | 153 |
|     |                    | 少し有意義だった     | 111 |
|     |                    | あまり有意義でなかった  | 12  |
|     |                    | まったく有意義でなかった | 0   |

|     |   |                     |     |
|-----|---|---------------------|-----|
| 質問3 | コア探究の授業で学んだことを他の教科の学習に活かすことができましたと思いますか               | かなりできた              | 88  |
|     |   | 少しできた               | 161 |
|     |   | あまりできなかった           | 24  |
|     |   | まったくできなかった          | 3   |
| 質問4 | コア探究の授業で学んだことをクラブ活動など学校生活に活かすことができましたと思いますか           | かなりできた              | 98  |
|     |   | 少しできた               | 145 |
|     |   | あまりできなかった           | 28  |
|     |   | まったくできなかった          | 5   |
| 質問5 | コア探究の授業を通じて主体的に取り組む姿勢が向上したと思いますか                      | 強くそう思う              | 104 |
|     |   | 少しそう思う              | 146 |
|     |   | あまりそう思わない           | 23  |
|     |   | まったくそう思わない          | 2   |
| 質問6 | コア探究の授業を通じて、仲間の意見を聞いたり自分の意見を説明する能力が向上したと思いますか         | 強くそう思う              | 141 |
|     |   | 少しそう思う              | 119 |
|     |   | あまりそう思わない           | 15  |
|     |   | まったくそう思わない          | 0   |
| 質問7 | コア探究の授業で最もよかったと思うテーマをひとつ選んでください                       | 鹿島建設の教材             | 37  |
|     |   | 学びと問いに関する授業         | 102 |
|     |   | 地域課題解決の実践としての植物公園企画 | 137 |
| 質問8 | コア探究の授業を通じて身に着けることができた、探究の方法やスキルとして印象に残ったものを2つ選んでください | 課題と解決策を表を使って整理する    | 77  |
|     |   | イメージマップ             | 79  |
|     |   | Xチャート               | 65  |
|     |   | KJ法                 | 26  |
|     |   | ストーリーボード            | 7   |
|     |   | 問いを立てる              | 193 |
|     |   | 課題解決のための仮説を考える      | 76  |

1年の振り返りとして、結果の評価は数値的に肯定的評価が否定的な評価を上回るものとなった。印象に残ったキーワードとして、「問いを立てる」が最頻となった。

## 6 まとめと課題

### 6.1 まとめ

生徒のアンケートから、多くの生徒の中でコア探究が他の教科やクラブ活動などの諸分野にかかわるものとして受け止められていた。そして実際に3~4割の生徒がコアの学びをそうした他の活動に活かすことができたと回答している。これは本来、コア探究のコンセプティングに合致したものであった。また、コアの受け止めについては概ね好評であったが、具体的には、資料に提示した2月まとめのアンケートでの「あなたにとってコアはどのような授業だったでしょうか？なぜコアの授業があると思いますか」の問いに対する回答がわかり易い。

当初の目標に掲げた、学びの主体形成の達成については定量的な評価をすることが難しい。この目標の実現は今後続くコア探究の学びの継続の中でも追及されるべきであろう。

実施した教員の感想からは「覚えるだけでなく考える、という考えをもてた点が一番大きいと思います。

また、情報を整理する手法をなんとなくではなく、一つ一つ演習を含めながら実践できたことにより、実際に使える手法になっていることも大きな意義だったと思います。」「将来的に研究等に活かせる様々な分析方法を習得することができる。また、実際の街や施設に焦点をあて、改善策や新企画を考えるという、実践的な学びができる。」「生徒たちの活動のなかで斬新なアイデアが次々に湧いてくる様子を近くで見ることができ、自身の教科活動にも活かせる要素が多くあってよかった。」「テーマに対して考察していくときにスキルと方法を学び、発想を広げていくことができ、そこからまた必要なことに絞り込んでいくことができるという考え方を指導することができたことはよかったと感じている。」「自分の授業を見直すうえで大変役に立ちました。例えば英文を読ませた時に、「疑問を持って読む」「質問文を作る」とこととコア探究の「問を立てる」ことを関連させて語りました。」と、コアの意義や指導の感想が寄せられている。実施する教員にとっても未知の部分が大きいコア探究を実施してこそ実感してもらえる意義は、コア探究の担当経験を年次ごとに増やすことで広がりを見せるだろう。

## 6.2 課題

次に、2020年度のコア探究の実施を振り返り、3つの課題を挙げておく。実施スタッフの問題、CSLとの係わり、メタ認知能力の向上に向けた研究の3つである。以下順に内容を記す。

ひとつはコア探究実施のスタッフ問題であった。コア探究はWWL (World Wide Learning) 事業に位置付けられ、研究主任の下でコア探究の授業は統括されている。一方でコア探究が教育課程上の総合的な学習の時間に位置付けられ、実施主体が当該学年となっているために、原則的に実施スタッフは学年主任及びホームルーム担任になっている。この際に高校3年間のコア探究全体を含む学校の探究活動を担う中心的会議体に必ずしも主任や担任が構成メンバーとして組織されているとは限らない。2020年度はまさにこのことが起こっている。このために、コア探究の計画や実施内容について、2018、2019年度からの引継ぎ事項に頼るしかない。また2020年度の高校1年の学年では実施主体のIGコースのホームルーム担任のうち、過去2年間のコア探究の授業経験者が不在で、かつ、新任教員2名、中学から新規に高校担任となった教員が3名含まれる構成のために、コア探究の授業イメージが十分に共有されたか疑わしい状況で授業を始めざるを得ない状況であった。第4回の授業から鹿島建設の探究教材を用いた理由のひとつが、実施主体の側の課題を克服するための工夫であった。

このようなスタッフ問題は将来的にも起こりうる。その克服に向けてはおおまかに2通りの方策が考えられる。ひとつは、誰でもが担えるコア探究の授業内容を確立し、その実施計画を含めたパッケージングを行うことである。またもうひとつは、実施主体の学年スタッフの中にWWLの構内組織メンバー兼コア探究の担当者を毎年継続的に配置し続けることである。前者は学校という教育機関の中でシラバスの確立という意味では望ましいものである一方で、各担当がコアの内容を理解し咀嚼して自分の言葉で語ることで、実施主体として教員としての成長に繋がるという過去の感想からの視点ではマイナス要素となる。

もうひとつの課題は、高校1年に配置されたCSL (キャリアサービスラーニング) との関わりである。CSLはコア探究に先行して実施され、ノウハウも蓄積されている。コア探究の前身的な内容を含み、コア探究の実施により、その内容は整理されたとは言え、授業を受ける生徒目線ではコア探究とCSLの関わりが例えばシラバスを読んだだけでは差別化が見えにくいという課題は依然として残っている (下表参照)。幸い7月

末に実施した生徒向けのアンケートの結果では、生徒の混乱は見られない（質問7参照）。コア探究はキャリア教育部が実施主体となり、数名の教員での教科担任のような担当制を採用している。CSLは将来のキャリアを見据えての社会人教育や道徳教育、そしてボランティア活動などを幅広く含む内容を持つが、コア探究との結びつきや学習内容、学習目標の更なる整理等が求められる。

表：CSLとコア探究の到達目標（2019年度）

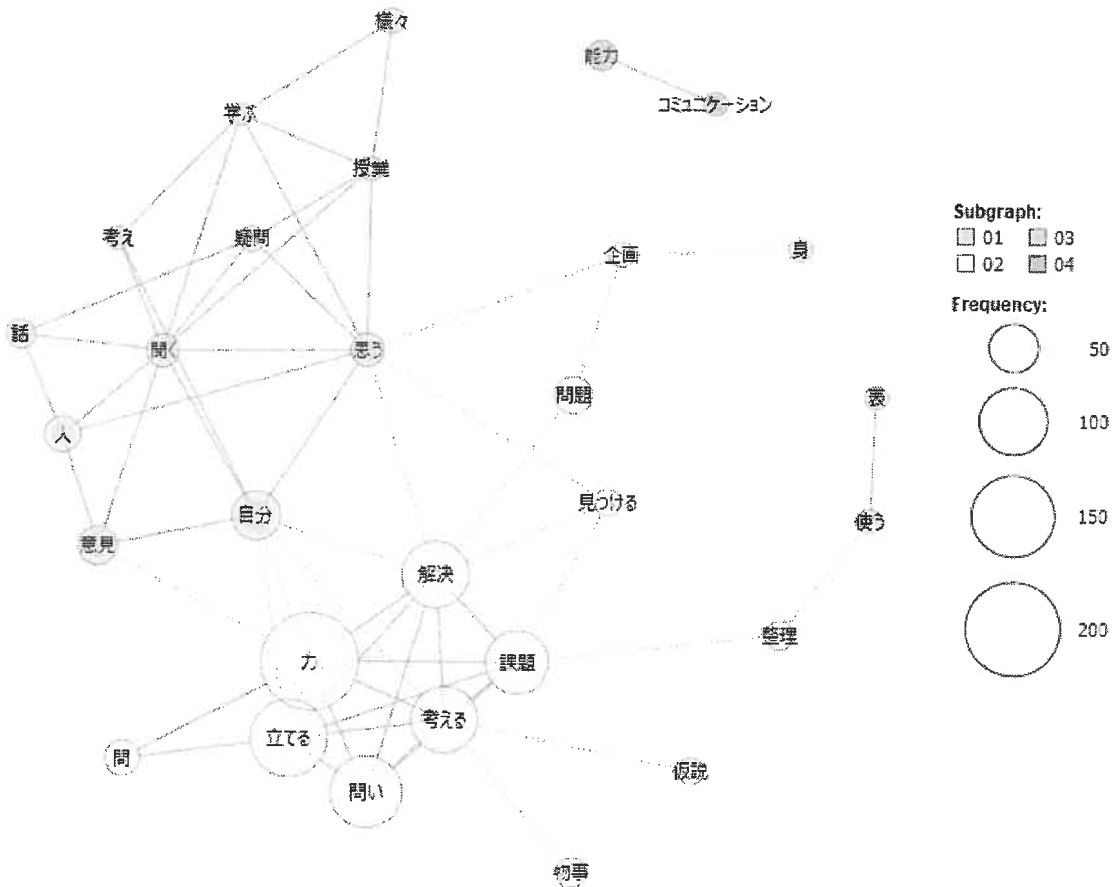
| 2019年度CSL到達目標   | 2019年度コア探究到達目標  |
|---|---|
| <p>①人とのかかわり方、自己コントロールなどの基礎力を伸ばし、自分や周りの人の良さ・強み・好みに気づく。（主にソーシャルスキルで到達を目指す）</p> <p>②自ら情報をキャッチし、自分から一步を踏み出せる人になる。チャンスを活かせる高校生になる。（主にサービスマニエールで到達を目指す）</p> <p>③学習する意味や社会で働く魅力に気がつき、自分なりに将来を見通してもっと学び、様々な経験をつもうという思いを持つ。まずは高い学習意欲を持ち、高2に向けて納得のできる進路選択ができる。（主にキャリアデザインで到達を目指す）</p> | <p>【下記①～③について学んだことを、教科学習や学校生活で活用できることが到達目標】</p> <p>①高校での学びのスタイルを身につける（グループワーク、授業や家庭での学び方など）。</p> <p>②問う力が向上し、深い思考ができるようになる。その結果学ぶ意義を自ら見出すことができ、自らのキャリアや探究したいテーマなどの大きな問いについても適切な問いを立てることができる。</p> <p>③議論ができ、成果が出るチーム・学級集団を作る。そうした集団を作ることに自ら貢献する。</p> |

さらにもうひとつは研究課題としてメタ認知能力の向上のための方策や評価の在り方を探るという課題である。コア探究は教科横断的であり、21世紀型学力の向上を目指すものとして、コア探究における課題（問題）解決の主体形成に向けてメタ認知能力を高めることが重要な鍵となる。数々の先行研究によってメタ認知能力の向上が学習効果に良い影響を及ぼすことが指摘されている。コア探究の授業を受けることで生徒のメタ認知能力がどのように向上するかなどの研究課題が残されている。

## 7 展望

2020年度は新型コロナウイルス感染症という不測の事態の中ではじまった。若い担任団で未経験の困難さを抱えながらのコア探究の実施ではあったが、各担当者が積極的に内容を理解し前半期を進めてきた。特に前半期の業者教材の利用は、担当者が課題解決のノウハウを知る準備期間としても有効であった。CSLとの関連や、後半に向けた教材の準備等の課題は残されている。また生徒の意識の変容や研究課題のひとつとしたメタ認知能力の向上をどこまで追求できるか、またその変化をどのように測定するかなど未知な部分も残されている。しかし、生徒の取組状況は良好であり、コア探究の学びを学校祭など実際の場面で活かす意識も決して低くないことが窺えた。2月に行ったまとめのアンケートでは、自由記述として「あなたにとってコアはどのような授業だったのでしょうか？なぜコアの授業があると思いますか」と問うた。この回答として生徒それぞれが自分の言葉でコアを表現していた。とりわけ「僕にとってのコア探求（ママ）は、自分を人間として成長させてくれる授業だったと思います。」という意識は、広い意味で教科に囚われずに学びと成長がリンクした感想のひとつであろう。コロナ禍の下で、集団作りの限界はあった。そのために当初の目標であった、学びの主体形成がどこまで実現できたかは疑わしい。しかし、このような感想を持つ生徒が幾人かでも育っていることもまた事実である。定量的な評価ができずに結論を下すことは不可能であるが、学びの主体形成を目指した取り組みは大きく間違っていないものと考えている。

資料2：2021年2月実施まとめのアンケートにおける「コア探究授業を通してチカラがついたと思うこと」の共起ネットワーク



資料3：「あなたにとってコアはどのような授業だったでしょうか？なぜコアの授業があると思いますか」の問いに対する回答（文字数上位者）。

- ・コアの授業は色々な科目やそのほかの生活面であっても非常に大切になってくることを多く学ぶことができた授業でした。初めの方は自分の考えがまとまらなかったり、どういう風に捉えたらよいのかとかすべて頭の中で考えてこうしようとかそういう風にしていましたが、コア探求の学習を通してその物事の考え方が変わったと思います。イメージマップなどを用いて考えてみたり KJ 法などの用法を使って考えてみたりなどして、すごく自分の考え方が変わった授業だなんて思って自分の成長につながる良い授業だったなと思いました。コアの授業があるのはほかの学習で使うことができるスキルがたくさんあるからだと思いました。
- ・学校の授業や日々の生活において、コア探求で学んだことを意識することで気づいたり、学んだりしたことを日々積み重ねていくことで自分自身の視野や考えも広がるので、現在の自分にとっても将来の自分にとっても大切な授業でした。また、これから社会に出ていく上で必要となってくる色々な人とのコミュニケーションの取り方や様々なことへの取り組み方などを学ぶためにコアの授業は必要だと思います。
- ・今まで考えることを放棄していた分野について、自分の中で納得するまで答えを出す授業。受動的に生きていると、大人から指示されたことを言われたままにするだけでも賢いとされて生きていけますが、自分で当たり前だと思っていたことに対して、それをやる理由を考えることで、今求められてクリエイティブさや個性ができていくから、コアの授業があるのだとおもいます。

・コアの授業は、すべての学びの基盤となる力を身に付けることが出来る授業だったと思う。物事にたいする多様な視野の持ち方、学ぶ意味、問いを立てることについて時間を多く費やして考え、他教科を効率的に、そしてより意味のある学びにしていく事ができたからです。コアの授業は、自分にとって学びが本当に必要であることを理解して、学べるようにするためだと思う。

・僕にとってのコア探求は、自分を人間として成長させてくれる授業だったと思います。CSLでも同じことが言えますが、コアでの課題に取り組んでいく中で自分の弱かった部分が見えてくるがありました。しかし、コア探求で練習を重ねることで、他者を尊重したり、多様な意見を受け入れたりする力がついたと思うので、自分を成長させてくれる授業になりました。

・ただ目標に向かって努力するのではなく、自分は何をしないといけないか・それを成し遂げるためにどうするのかなど分析する力得ることができ、計画的に効率よく目標を成し遂げられるように手助けしてくれる授業。

将来の夢ができたり、壁にぶつかったりしていく中でそれを解決するための基礎の方法を教えるためにコアの授業がある。

・私にとってコアは考える授業でした。答えのない問いに答え、自分の考えをメインとして物事を進めることは難しかったけれど、自分のためになったと思います。鹿島建設や植物公園の地域課題解決は今後また解決策を考えるときに役立つと思いました。だから、コアは将来社会に出たときに活用するスキルを学ぶためにあると思いました。

・コア探求は人生に基礎となる学びだからだと思います。課題解決ということはこれから先何回も使うスキルだと思います。それを学ぶというのはこれからの将来の基礎を学ぶということではないかなと思います。これからの将来の基礎を学ぶ事ができ、その学びを通して基礎を深める事ができるからコア探求というのだと思います。

・勉強するとかそれ以前のことをこの授業で考えることができ、今後の自分の発展につなげることが期待できるような授業。普通の授業では習うことができないような内容を学ぶことができ、今からでも、学んだことを実践することができ、自分が社会に出たときにも役立つような内容を学ぶことができるから。

・私にとってコアの授業は、大人になるためのステップだと思いました。コアの授業は、問いを立てることや問題解決のやり方を学ぶことができました。それらは、将来私たちが大人になった時に必要になる力だと思います。社会に通用する大人になるためにコアの授業は必要だと思いました。

・鹿島建設の授業は、課題や解決策を見つけるのが難しく、コアの授業が嫌なときもあった。でもその発展判となる植物公園企画では、グループで話し合っ、どんどんアイデアが広がっていくのが楽しかった。問いを立てるとこんなに人の話に入り込めるんだと気づいた。

・コアの授業は他の教科の授業と違って実生活で実践できるようなものがたくさんあって将来に役立つ授業だったと思う。社会に出てからもコミュニケーションやそういう面での不便をできるだけなくす、社会に適応できる能力を養うためにコアの授業があると思う。

・自分を成長させる部分があれば、この取り組みは本当に必要なのか？と考えさせられる時もあった。しかし、それを考えることに意味があって、自分が必要ないと判断できるのも考えているからである。コアの授業は、創造力の引き出しを作るためにあると思う。

・これから先や、社会人になって働きだしたときとかに使えそうなスキルや探求方法をたくさん学ぶことができたのでとても自分のためになる授業だったと思います。

コアの授業はこれから先生きていくうえで必要なスキルを学ぶための授業だと思います。

・正直、最初は、何の意味があるのかわからなかったけれど、いろんな方法を知ることで日常生活でも使おうと考え、授業の意義を感じれるようになった。人生で成長し続けるために、自分で主体的に生きていけるための授業。

## 令和2年度研究開発実施報告書

★本校は平成31年度(令和元年度)よりWWL指定を受けることになり、平成30年度より研究開発学校として取り組む予定だった内容のすべてをWWLの一環として行うこととなった。本報告書はWWLの中のカリキュラム開発部分を取り出したものである。

### 1 研究開発課題

カリキュラム構造創出を促す日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発  
～学びに向かう力や人間性等の涵養、および社会・世界と関わりよりよい人生を送ろうとする  
「アクティブラーナー」を育成するために～

### 2 研究開発の概要

日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発を行う。生徒をアクティブラーナーとして成長させていく上では、教科領域と教科外領域の関係性を高め教育課程全般の教育力を向上させていくことが大きな意味を持つ。これを可能にするカリキュラムと教育内容や評価方法を確立し学校として取り組んでいく。既存教科にばらばらにある探究的教育活動の共通項目やベースをコア科目に集中させることによりカリキュラムを精選し、トータルでアクティブラーナー育成に資する教育を提供するためのカリキュラムマネジメントの推進力とする。コア科目はすべての教育活動に通底する力を育てる、文字通り中核と位置づける。本研究では教員にとってはコア科目と教科の指導、生徒にとってはコア科目と教科の学習がどのような過程を経てつながっていくのかも明らかにする。これにより学校のカリキュラムマネジメント進捗を見える化し、そのモデルを明らかにする。

### 3 研究開発の経緯

＜令和2年度 主な取り組み＞

| 月  | 内容   |
|----|--|
| 7  | ・第1回運営指導委員会  |
| 10 | ・コア探究プチ公開研究会 参加者 学外から40名<br>講師：佐藤さま（キャリアリンク）<br>「未来の社会を考える探究型プログラム」100年を創造するチカラ<br>・第2回運営指導委員会 |
| 12 | ・マイプロジェクトアワード in 宇治開催  |
| 1  | ・WWL 公開研究会 学外（保護者含む）にも公開し、生徒全員が発表<br>・第3回運営指導委員会   |

\* 表には記載していないが、校内では定期的に WWL 全体の運営会議と3学年主任でのコア探究の運営打ち合わせを実施した。

\* 学校外での取り組み発信や視察等受け入れ、ISN 関連事業は上記表に記載せず。

\* 個別にお願いした指導助言も記載せず。



<令和2年度 コア探究運営指導委員メンバー>

| 氏名   | 所属                        | 職名               | 備考(専門分野等)    |
|------|---------------------------|------------------|--------------|
| 上杉兼司 | 立命館宇治                     | 副校長              |              |
| 八木誠  | 立命館宇治                     | 高校教頭             |              |
| 酒井淳平 | 立命館宇治                     | 教諭、研究主任          | 高3学年主任       |
| 西田透  | 立命館宇治                     | 教諭               | 高2学年主任       |
| 稲葉芳成 | 立命館宇治                     | 教諭               | 高1学年主任       |
| 河井亨  | 立命館大学                     | 准教授              | 大学生の学びと成長    |
| 村井尚子 | 京都女子大学                    | 准教授              | リフレクション、教師教育 |
| 山下真司 | リクルート                     | キャリアガイダンス<br>編集長 | キャリア教育       |
| 大森順子 | 筑波大学大学院                   | 大学院生             | 元百合学院進路指導部長  |
| 小村俊平 | OECD日本イノベーション<br>教育ネットワーク | 事務局長             | 他に岡山大学学長補佐など |

\*WWLとして上記以外に運営指導委員メンバーが学内に6名、学外に6名

#### 4 研究開発の内容

本研究開発では「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(学内呼称は「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)」とし、学習指導要領の先行実施を行う。以下1)研究開発での主な知見 2)教育課程の目標 3)教育課程の内容 4)授業形態や運用上の工夫 5)教科との連携など 6)研究計画 7)評価計画について記載する。なお教育課程は毎年修正しているが以下の記載は2020年度のものである。

##### 1) 主な知見

- \*総合的な探究の時間でこそ「思考・判断・表現」の力が育つ。それを支えるのは「学びに向かう力」である。学力の3要素で考えると、教科固有の「知識・技能」を育てる各教科、教科を越えた汎用的な「思考・判断・表現」を育てる総合的な探究の時間、それらすべてを支え「学びに向かう力を育てる特別活動(キャリア教育を含む)。この組み合わせで生徒が育つ。したがって、キャリア教育の要素を含んだ本校のコア探究は教育課程の「コア」である、→日本の学習指導要領においては「キャリア教育の視点」を十分に含んだ総合的な探究の時間と特別活動がIB教育におけるコア科目の役割を果たす
- \*コア探究が機能するために大切なものは、教員チームのチーム力であり、教員が学習する集団になれるかがポイント。そのための鍵はマインドセット。
- \*コア探究でのマイラーニングストーリーはキャリアパスポートになる。リフレクションは重要
- \*大人の本気教材でのスキルが重要
- \*プロジェクトの大切さ。チョコプロ。人のためにが難しい。サイクルをまわす。
- \*コア探究を通じて、生徒の力や進路意識は向上した
- \*教員はコア探究にともに取り組むことで、徐々に成長し、コアの理解を深めていく。

##### 2) コア探究における教育課程

###### ①目標(各学校において定める目標)

各教科学習や各種自主活動に主体的・能動的に取り組む土台となる力を育成する。課題を設定する力や自らテーマを定めた課題研究を仕上げるアカデミックな力と、省察から将来の目標を設定する力や自己決定し自ら取り組むことができる力を持ち、自ら発信できるようになる。

## ②各科目の目標

**コア探究Ⅰ**（1年次、2単位）の目標：「徹底的につなぐ力」の育成。

- （1）問いを立てることから学ぶ意味を探究し、自らにとっての学ぶ意味を文章や行動で表現できる。自分と学びをつなぐ。
- （2）学んだことや経験したこと、出会いをふりかえってつなぎ、そこから自身の次の目標や将来の見通しを持つことができる。学びや経験を自分事化して、自分のこれからとつなぐ。

**コア探究Ⅱ**（2年次、1単位）の目標：「自分ごととなる課題を設定する力」の育成

- （1）長い時間かけて明らかにしたい自分の研究課題を設定することができる。
- （2）実社会での経験もふまえ、自らが解決すべき（解決したい）社会課題や研究課題を設定することができる。

**コア探究Ⅲ**（3年次、2単位）の目標：「自ら発信する力」の育成

- （1）課題研究を仕上げることができる。
- （2）自らのキャリアと結びついた課題研究の内容を、プレゼンやプロジェクトの参加などの形で社会に向けて発信することができる。

## 3) 教育課程の内容

**コア探究Ⅰ**

- （1）コア ア 問いを立てる イ スタディースキル ウ チームビルディング
  - （2）CSL ア キャリアデザイン イ サービスラーニング ウ ソーシャルスキル
- アクティブラーナーのベースを鍛えることがテーマ。社会貢献活動も行いながら、自らのあり方や生き方を考え、社会や他者への貢献何のために学ぶのかという視点を動機とする学びのモチベーションを涵養する。大人の本気の探究の過程などを教材(\*)として、高校生活の土台となる力を鍛える。(\*) (株)キャリアリンク「未来の社会を考える探究型プログラム」100年を創造する千カラ」を使用。

**コア探究Ⅱ**

- （1）社会課題解決PBL×キャリア 「チョコプロ」
  - （2）キャリア×研究テーマ設定
- 社会的存在としての自己認識・自己形成がテーマ。自らを取り巻く国内外の諸課題との当事者意識を伴う出会いを通し、課題研究のテーマを発見する。発見したテーマを探究するのに必要なスキルを高める。

**コア探究Ⅲ**

- （1）課題研究
  - （2）課題研究のプロジェクト化と発信、リフレクション
- 社会への発信・社会からのフィードバック（課題研究）・リフレクションがテーマ。自ら設定した課題に対し仮説を立てリサーチする（2年生から継続）。3年生ではその発信とそのことを通じた課題研究のブラッシュアップを到達目標とし、論文・ポスター・プレゼンテーション、もしくは映像等の手段を適切に活用して発信する。大学・地域社会・専門家等からフィードバックを受け、大学以降のキャリア目標の形成につなげる。マイラーニングストーリーを作成する。

今年度新規に教材開発・授業実践を行ったのはコア探究Ⅲである。年間カリキュラム・シラバスは報告書にある通りである。同時にコア探究Ⅱ、コア探究Ⅰについてもカリキュラムのブラッシュアップを行った。特にコア探究Ⅱの「チョコプロの実施」、コア探究Ⅰの「キャリアリンク

の教材（鹿島建設教材）活用による探究の基礎スキルの育成」「植物公園魅力化による探究スキルの活用」が特徴的な実践である。

#### 4) 授業形態や運用上の工夫

コア科目「総合的な探究の時間」は学年をベースにさまざまな教科の教員がチームとなって実践する。IB プログラムのコア科目においては、それぞれ専門の教員が配置されているが、本研究開発ではあえて異なる方法を採用することになる。これは日本の学校教育において学年というチームが持つ力が大きいという仮説に基づいている。

（授業形態の工夫）

- ・クラス単位で実施し、毎時間グループワークを入れるワークショップ形式の授業を実施した。
- ・授業実施にあたっては毎時間各クラス共通して使用するパワーポイントを準備し、授業内容の統一ができるように工夫した。

（運用上の工夫）

- ・コア探究Ⅰについては昨年度同様、2単位をコアとキャリア（CSL）に分割して運用した。コア1単位は担任＋学年主任の9人の担当教員が8クラスを、キャリア1単位は3人の担当教員が7クラスを担当する形で実施した。
- ・コア探究の指導にあたっては、教員のファシリテーション力も要求されるため、教員が学びあえる時間を担任会議の時間に設定した。またコア探究Ⅰ・Ⅱにおいてはクラス数より担当者数が1人多いことで相互の授業見学や巡回・指導補助教員を配置することができた。これは教員の授業力向上という点で大きな役割を果たした。また教員が自分のクラス以外にする時間を意識的にもうける、教材準備にあたってはブラッシュアップ担当を決めるなど、教員の交流がうまれることを意識して取り組んだ。

#### 5) コア探究と各教科などとの連携について

- ・たとえば以下のような取組が行われ、コア探究と教科の連携によって取り組みがより良くなることが明らかになった。高1では特別活動とコア探究の連携を意識した取り組みも実施された。一方でコア探究の取り組みについて全教員が理解しているわけではなく、今後より連携を強化する必要がある。

国語：昨年度使用した論述課題のフォーマットを課題研究のテーマ設定で使用。3学期課題をコア探究と連動する形で、自分の研究テーマについて800文字～1000文字。内容は口頭試問などで確認し、書き方について国語という形で分担。文学総合でも文学×学問など特徴的な取り組みが実施された。

英語：学年末に自分でテーマを決めてスピーチするという取り組み。その際、コア探究での問いを立てることやテーマ設定での学びを活用した。

政治経済：授業の一環で宇治市議会への提言というのがある。コア探究で取り組んだ「宇治市魅力化案」を政治経済の授業でブラッシュアップして、市議会へ提言した。

地学や物理など：授業内で地学に関することで自らテーマを立ててレポートをまとめる取り組みを実施。

年度末の口頭試問と同じく、評価するルーブリックも事前に配布。

SDGs：授業内で生徒たちがグループでプロジェクトに取り組む。またその中に国際協働のものもあり、ISNと連動して取り組んだものもある。

なおコア科目「総合的な探究の時間」と各教科との関係・イメージ図は本文書末尾の資料1の通りである。

6) 年次研究計画

(下線部は当初の予定にはなかったが、実施状況を見て追加したもの。)

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p>第1年次</p>              | <p>&lt;カリキュラム開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生「コア探究Ⅰ」のカリキュラム開発、授業実践開始。</li> <li>・2年生、3年生「コア探究Ⅱ・Ⅲ」のカリキュラム開発。</li> </ul> <p>&lt;評価に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価指標に関する研究（質問紙作成も含む）。</li> <li>・評価の研究（特にパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価）</li> <li>・生徒の学びと成長を評価するルーブリックの原案作成</li> </ul> <p>&lt;研究、教員研修、学外への公開、まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の授業研究</li> <li>・国際バカロレア、特にTOK・CASを日本に導入するための研究。</li> <li>・先進校の視察（PBL授業、21世紀型教育、課題研究など）。</li> <li>・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業・公開研究会を開催（1回）。</li> <li>・成果報告冊子作成。</li> </ul>   |
| <p>第2年次<br/>(平成31年度)</p> | <p>&lt;カリキュラム開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生、2年生「コア探究Ⅰ・Ⅱ」の授業実践。</li> <li>・3年生「コア探究Ⅲ」のカリキュラム開発。</li> <li>・コアと各教科の取り組みの可視化。</li> <li>・I S N2.0(*)の取り組みを教育課程内に取り入れる研究。「教育課程内と課外の自主活動を結びつけたPBL」の実施。</li> <li>・<u>マイプロジェクトin宇治開催（2校・8プロジェクト・50名参加）</u></li> <li>・<u>特活と総合を連動させたカリキュラム実施</u></li> <li>・<u>トモノカイとコラボしての教材開発</u></li> </ul> <p>&lt;評価に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックの完成。ルーブリックを用いての評価（高3に試行）</li> <li>・生徒のリテラシー・コンピテンシーの変容調査、枠組み設計</li> <li>・<u>生徒の学習に向かう姿勢アセスメント実施</u></li> </ul> <p>&lt;研究、教員研修、学外への公開、まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間について、体制づくり、各教科への影響や波及効果、教員の成長についての研究</li> <li>・課題研究（プロジェクト）のアウトプットの場合、高大連携の研究</li> <li>・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業公開研究会を開催（1回）。WWL学習発表会でもコア探究を報告。</li> <li>・成果報告冊子作成</li> <li>・ポートフォリオを成長につなげる仕組みやキャリアパスポート活用法の研究</li> </ul> |
| <p>第3年次<br/>(令和2年度)</p>  | <p>&lt;カリキュラム開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業実践とカリキュラム修正</li> <li>・<u>外部教材をカリキュラムに取り入れる研究（（株）キャリアリンク「未来の社会を考える探究型プログラム」100年を創造するチカラ）</u></li> <li>・<u>リフレクション（各学年）のカリキュラム設計と実施</u></li> <li>・<u>マイプロジェクトin宇治などセカンドキャリアを意識したカリキュラム設計</u></li> <li>・<u>キャリア形成と密接に結びついた探究カリキュラムの研究</u></li> <li>・<u>探究の高度化につながるリフレクションや、探究に取り組んでのリフレクションについての教材開発</u></li> </ul>  |

|                 |   |
|-----------------|---|
|                 | <p>&lt;評価に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリックを用いての評価 ・パフォーマンス課題 ・キャリアパスポート</li> <li>・コンピテンシー・リテラシーによる生徒の成長分析</li> </ul> <p>&lt;研究、教員研修、学外への公開、まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業・公開研究会を開催</li> <li>・課題研究高度化、中高連携、高大連携についての取り組みと検証を行う。</li> <li>・総合的な探究の時間を継続的に実施し、教員が育つための体制作りの研究</li> <li>・総合的な探究の時間の各教科への影響や波及効果についての研究</li> <li>・キャリアパスポート活用法やリフレクションのあり方についての研究</li> <li>・成果報告冊子作成（3年分の教材まとめ）</li> </ul>                                 |
| 第4年次<br>(令和3年度) | <p>&lt;カリキュラム開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」完成版テキストで授業実施。</li> </ul> <p>&lt;カリキュラムマネジメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高接続、高大連携について、コア探究の知見をもとに取り組みを改良する。</li> </ul> <p>&lt;評価に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の大学での追跡調査。</li> <li>・前年度の評価方法ふりかえり、改善→定着</li> </ul> <p>&lt;研究、教員研修、学外への公開、まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営指導委員会（3回程度）、公開授業・公開研究会を開催（1回）</li> <li>・研究のまとめ。</li> <li>・4年間の研究報告冊子作成</li> </ul> |

\* I S N 2.0とは「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」の略称。OECD（経済協力開発機構）と文部科学省の協力のもと、21世紀型に求められる資質・能力を涵養するための新しい学びのモデルの開発などを行う。

#### 7) 年次評価計画

|                  |   |
|------------------|---|
| 第1年次             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム評価1（コア探究Ⅰのカリキュラムについて）</li> <li>・教材評価1（主にコア探究Ⅰについて）</li> <li>・生徒の実態分析1（進路意識、学びのスキルなど）</li> <li>・教員の実態分析1（コア探究と教科の繋がり、教育目標理解など）</li> <li>・授業実践評価1（外部評価、内部評価）</li> </ul> |
| 第2年次<br>(平成31年度) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム。教材評価2（コア探究Ⅱのカリキュラムについて）</li> <li>・生徒の実態分析2（進路意識、学びのスキル）</li> <li>・教員の実態分析2（前年度比較、コア経験有無による違いなど）</li> <li>・授業実践評価2（外部評価、内部評価）</li> <li>・研究仮説の検証と再構築</li> </ul>        |
| 第3年次             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム評価3（コア探究Ⅲおよび3年間のカリキュラムについて）</li> <li>・生徒の実態分析3（進路意識、学びのスキル、コア探究の効果を測定する）</li> <li>・教員の実態分析3（主に3年間の変化を測定する）</li> <li>・授業実践評価3（外部評価、内部評価）</li> </ul>                    |
| 第4年次             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究評価（生徒や教員の変化、カリキュラムマネジメント、評価指標への到達度、ルーブリックの妥当性など）</li> <li>・卒業生の追跡調査（内部進学の子供を中心に大学での様子を調査）</li> </ul>  |

## 5 研究開発の結果及びその分析

「主な知見」として先述したことに加えて、「仮説の検証」「生徒への効果」「教員への効果」などを中心に分析したい。

### 1) 仮説の検証

研究開発にあたり以下の A～E5 つの視点から 20 個の仮説を立てた。高大接続に関わる仮説など現時点では検証不可能なものを除いて現時点での検証を行った。概要を以下に記載する。

#### A. アクティブラーナー育成のために必要なことに関する仮説

→方向性は間違っていない。マインドやスキルは確かに重要だが、実社会の課題解決に取り組む中でスキルを学ぶこと、アクションを起こすこと、発信することで探究のサイクルをまわすことが、生徒の成長につながるだろうことが明らかになってきた。

#### B. 総合的な探究の時間が各教科の指導や教員に与える影響に関する仮説

→予想以上に効果が見られた。教員としての指導者の力量アップや教員集団のチーム作りという点でも総合的な探究の時間に学年の教員が集団として取り組むことで教育力を高める可能性は大きい。教員が教科を越えて自然と協働できることが要因として大きいのではないか。

#### C. 総合的な探究の時間の内容や評価に関わる仮説

→総合的な探究の時間では、思考・判断・表現の力を育てることができた。逆にそのようなカリキュラム設計にするのが良いことが明らかになった。アカデミックな力とキャリア意識の2つの土台が存在することも明らかになってきた。一方で学びの集大成として、論文という形式か、学びや取り組みの過程としてのプロジェクトという形式のどちらをメインにするのか、大きく2つの方向があることが明らかになったが、これは表現方法の違いでもあり、重要なことは探究サイクルを自分でまわし続けることである。

#### D. 生徒の資質能力向上に関わる仮説

→将来の見通しを持つ生徒の増加など、意識の部分については仮説の検証が進んでいる。「学びみらいPASS」の結果から、思考・判断・表現の力も伸びていることがわかる。生徒の作品についての評価を今後進め、より詳しく分析したい。

#### E. 本研究の普及に関する仮説

→3年間で1500人以上への発信をしている。また多くの視察も受け入れている。

### 2) 生徒への効果

主に(1)生徒の記述(2)生徒のキャリア意識の変化(3)学びみらいPASSの3つの調査から生徒の実態把握や効果を分析した。最後に生徒の感想で多かったものを掲載する。

#### (1) 生徒の記述からコア探究でついた力を考える

##### ① コア探究の授業を通じてどのような力がついたのか？

##### (コア探究Ⅰ)

\* 問いを立てる力 \* 課題を解決する力 \* 考える力 \* 人としての力 (CSL)

##### (コア探究Ⅲ)

\* 考える力 \* 文章力 (論文を書く力含む) \* 問いを立てる力

\* 情報を調べる力 \* 人に伝える力

##### (3年間のコア探究でついた力)

\* 考える力 \* 問いを立てる力 \* 課題解決力 \* 書く力 \* プレゼン力

3年間を通じて「問いを立てる」「考える」「課題を解決する」などの力が向上したと生徒は実感している。これらは学力の3要素でいえば「思考力・判断力・表現力」にあたる。

なおコア探究Ⅰでは2単位を1単位ずつに分割し、1単位分を「CSL（キャリア教育授業）」、もう1単位分を「コア（探究）」として運用している。特にCSLでは「生きていくうえで大切なこと」「自分自身について考える力」など、学力の3要素でいえば「学びに向かう力」にあたる力がついたとの回答が多かった。これは実施以来ずっと同じである。ここから、生徒はコア探究の授業を通じて「思考・判断・表現」の力が育ったと感じているが、特にCSLについては「学びに向かう力」が育ったと感じていることがわかる。

カリキュラムマネジメントを考える上で、総合とキャリア教育を含む特別活動がどちらも重要であることがここからもわかる。

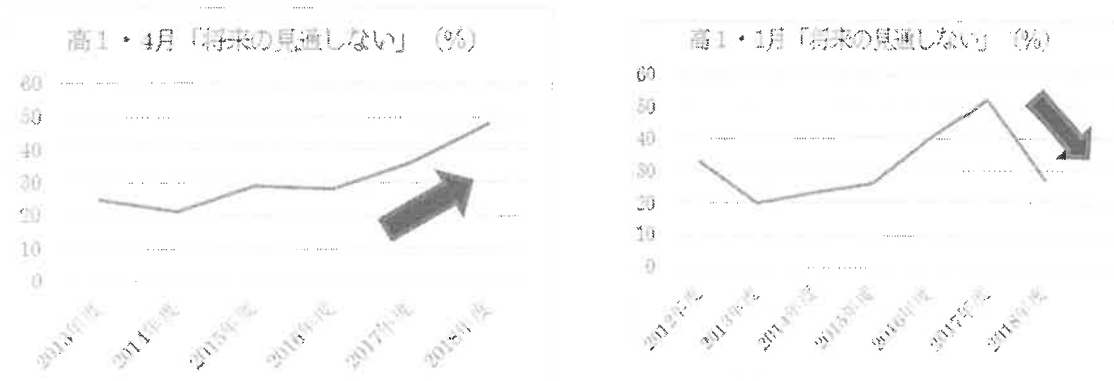
## ②なぜコアの授業があるのか

学年に関係なく「すべてにつながるからだから」「他教科で学べないことだから」「将来大切なことを学ぶ」という記述が多かった。後輩への助言は「真剣に取り組んでほしい」「取り組んでいるうちに重要性がわかる」など生徒たちがコア探究を重要と考えていることがわかる記述が多かった。3年生は「コア探究はすべての学びにおいて自分自身の核となる考え方を身に着けるために学ぶ」「学ぶことによってその人の人生をより良いものにするからコア探究があるのだと思う」など人生の根幹であるという記述も多く見られた。

## (2) 生徒のキャリア意識の変化

桐蔭横浜大学学長の溝上慎一先生は「大学入学時に将来の見通しを持っているかどうか、その後の成長にとって重要であること」「大学4年間で将来の見通しはあまり変化しない」ことを明らかにした。これは高校時代に将来の見通しを持てるかどうかの重要性を示している。本校では2013年の～2015年度のキャリア教育指定の効果測定の際にこの数値を使用した、途中数年間のブランクはあったが、調査は継続している。コア探究1期生（2018年度入学生）の将来の見通しについて、高校入学時（高1・4月）・卒業時（高3・1月）の2地点での調査結果から考察したい。

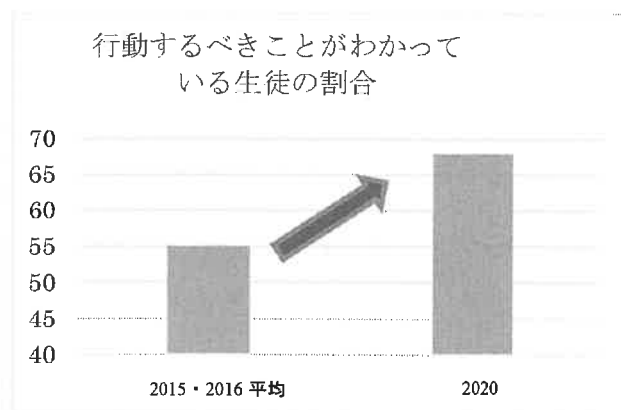
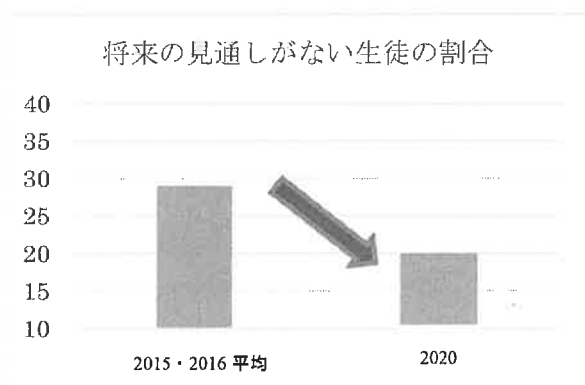
### <高校入学時>



上の図が高校1年次における「将来の見通しがない」と答えた生徒の割合である。近年急速に入学時に「将来の見通しがない」生徒が増え、2017年度は40%近く、2018年度は48%であった。原因はわからないが、これは「まじめで素直だが受け身な生徒が増えた」という教員の感覚

とも一致する。しかしコア探究を実施したことで、高1終了時における「将来の見通しがない」という生徒は52%→27%と激減したことがわかる。コア探究がキャリア教育の要素を十分に含んでいたこと、学年全体で取り組んだことも大きいのだろう。

その後、高校卒業直前の「将来の見通しがない」と答えた生徒の割合が下の表である。2017年度～2019年度は高3のデータがないため、ここでは2015年度・2016年度の平均（2013年度・2014年度高1）と2020年度（コア探究一期生）の比較を行いたい。



上のグラフからわかるように、2020年度卒業生は過去と比べて卒業時に将来の見通しがない生徒が減少（29%→20%）している。先ほどのグラフにあったように、入学時では「将来の見通しがない」生徒が増加していることを考えると、生徒が大きく成長していることがわかる。

またこの調査では将来の見通しがある生徒についても「将来に向けてとるべき行動がわかっているかどうか」も聞いている。その結果が右のグラフである。「将来の見通し」を持つだけでなく、「将来に向けて行動するべきことがわかっている」生徒も増えていることがわかる。

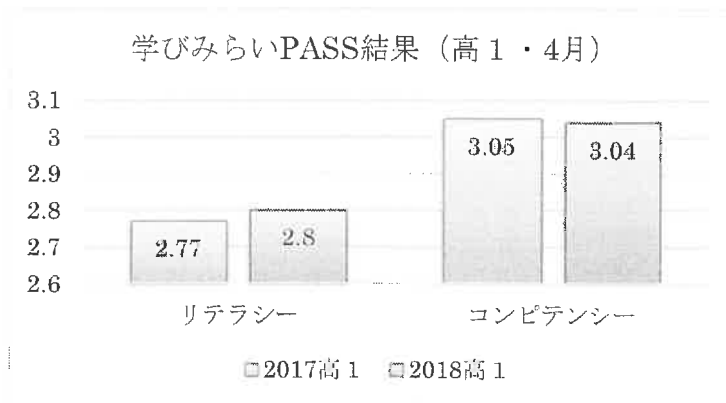
### （3）学びみらいPASSによる実態把握

2017年度より学びみらいPASSを高校1年生の4月に受験している。学びみらいPASSはこれからの社会で求められる力を測定するために河合塾が開発したテストである。「知識を活用して問題を解決する力（リテラシー）」と「人と自分に最適な関係をもたらそうとする力（コンピテンシー）」を測定するテストである。大学でも広く実施されていることから、大学生との比較もできる。右のグラフにあるように2017年度・2018年度の結果から、

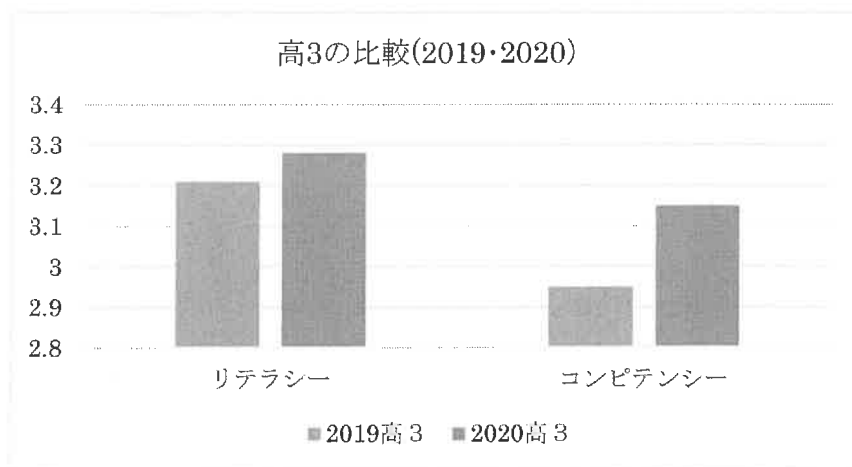
「本校の生徒はリテラシー（知識を活用して問題を解決する力）に課題を抱えていること」が明らかになった。

またグラフから2017年度と2018年度で入学時点での生徒の差はほとんどないことがわかる。コア探究は2018年度より実施しているため、そ

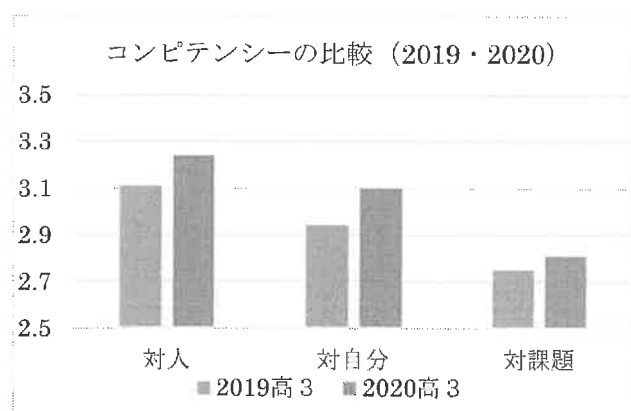
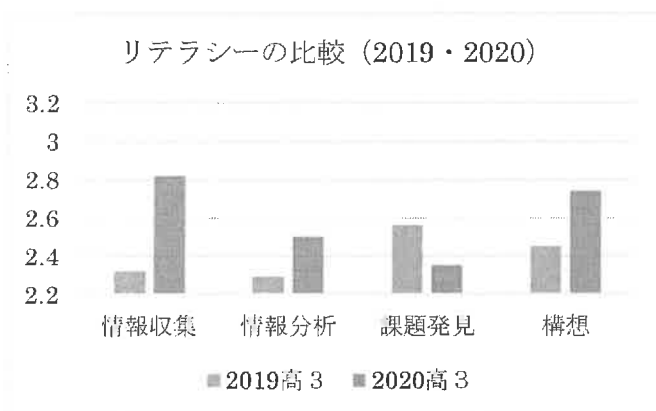
それぞれの学年が卒業する際のテスト結果にはコア探究取り組みが影響を与えることになる。下が2019年度（コア探究実施前）の高3と2020年度（コア探究実施後）の生徒の状況である。





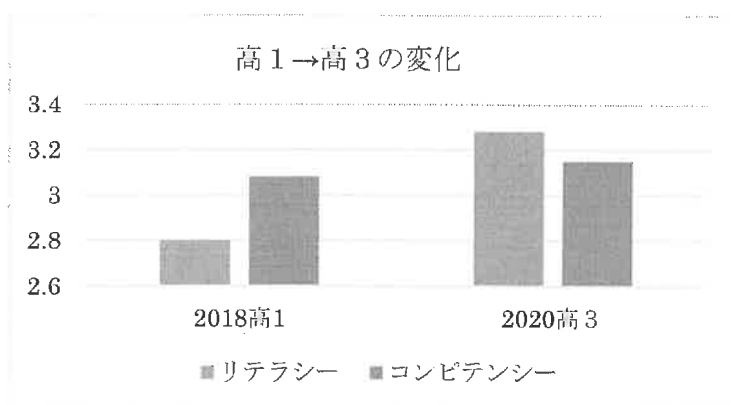


このグラフから、コア探究実施学年は実施前の学年と比べてリテラシーは少し、コンピテンシーは大きく向上していることがわかる。リテラシーは全体としては微増であるが、下位項目を見ると特に「情報分析」や「構想」力が上昇していることがわかる。コンピテンシーについては「対自己」が特に向上していることがわかる。



では3年間を通じての生徒の成長はどうだろうか。右のグラフが高1→高3でのリテラシー・コンピテンシーの変化である。

本校の生徒はコンピテンシーが高い反面、リテラシーに課題を抱えていることは先述したが、高校での学びを通じてリテラシーの数値が向上していることがわかる。特に情報収集は0.5ポイント向上している。学びみらいPASSにおけるリテラシーは知識を活用して課題を解決する力である。これは学力の3要素でいえば2つ目の「思考力・判断力・表現力」に他ならない。



#### ★生徒の感想で多かったもの

昨年度同様、学習を進めるうちにコア探究の意義がよく分かったという生徒が多かった。特に

よく見られた感想は次のようなものである。ここでは高校3年生について記載したが（1年生・2年生は昨年までと大きな変化がなかったため）、高校1年生については高1のページにも生徒の感想が記載されている。

#### （コア探究Ⅲ）

- ・これからの人生において、絶対役に立つことを教えてもらえた。普通学校では教えてくれないことをしっかり吸収できたと思う。
- ・この3年間で色々な視点から物事を捉えていくことができたもって新しいことに挑戦していきたい
- ・コア探究の授業はいろいろ自分で考えたりしないといけなかったから大変だったけど、これから先、コア探究の授業で身につけた力は役に立つと思うし、この授業を受けれて良かったです。
- ・1年から3年までのコア探求の学びが最後の論文に全てつながっていることが分かり、とても良かったです。もともと、疑問を立てることが苦手なタイプだったので、この授業を通して、疑問から仮説を立てるという流れをどのようにするべきなのか学べたので良かったです。1年の時からもって身の回りの疑問を深めていけば、3年になった時に色々なことに疑問を持って自分の将来ともって繋がる論文を書くこともできたのかなと思います。

### 3) 教師への効果

過去2年間の取り組みから教員集団の変容として「学習する組織の実現」「他教科を知る」「授業力向上」「教科指導への影響」の4つがあげられることが明らかになった。また2年間担当するとカリキュラムマネジメントの視点を自然と持つことも明らかになった。これらを前提として、今年度の教員アンケートを以下に掲載する。なお高校1年生については、高1の報告ページに記載されているので省略した。

#### 教員の感想（高2）運用面やコアの内容などを中心に（★は研究主任より補足）

- ・生徒の自由な発想をみれ。担当教科への考え方が変化してくることがある。
- ・学年の中に教科だけでなく多くのことへのチャレンジしていく生徒層が増えてきたこと。3000字論文ではコンクールで入賞する生徒も出たことはよかった。その一方では、意識の差が開いたような点も感じる。
- ・3000字の論文を書くことを1学期にできたことで学問への興味・関心とアカデミックな成長は感じられた。教員が添削して改善する余地がある。生徒の相互添削では視点が限定される。ただ、それだけの労力を割けないのがむずかしいところ
- ・3学期のチョコプロはとてもよかった。プロジェクト型で宇治らしい取り組みでできた。またクラス内で情報共有することと2回実施できたことがレベルアップにつながった。チョコプロを入れることで実践形式でコアを深めることができたように感じる。
- ・高校2年生までの担当については、担任が担当する方がよい。理由としては、2点ある。1点目は、クラスづくりの観点。授業でありながら、クラスづくりをする要素がコア探究のカリキュラムにはあり、生徒と生徒。担任と生徒との関係が深まる。2点目は、教員のスキルアップの観点。どうしても担当教科のみを指導していくことで、視野が狭くなってしまい、一方方向からのアプローチになりがちになる。コア探究の授業内容を通して、教員自身の気づき、教科指導へのいい意味での広がりが出てくる
- ・各プロジェクトをする前に、コア探究の授業のゴールや探究のサイクルを説明して、このプロジェクトを通して身につけてほしいことを提示する、もしくは何度も説明することが必要。
- ・カリキュラムの明確化とコア探究という授業への深い理解。ここについては、カリキュラム委

員会を中心にこの3年間の振り返りや新しく勤務される先生方への説明も含め、学校全体として実施していくべきことだと思う

★生徒の個人差については昨年度同様の課題ではあるが、飛びぬけた生徒が育ちつつあるからこそおこっている現象かもしれない。コア探究としての形が徐々に見えてきたこと、論文を書くようなアカデミックなアプローチとプロジェクトを興すようなアプローチの両面が必要であり、それを支えるのが、自分自身の将来の目標などキャリア教育に当たる部分であるだろうことが明らかになってきた。学校としての定着がこれからの課題であろう。

### 教員の感想とそこからの考察（高3）（★は研究主任より補足して考察）

過去2年間の教員の感想から取り組みを進めるにあたっては「生徒の個人差への対応」「教員のマインドセット」が大きなポイントであることが明らかになった。またコア探究に教科関係なく取り組むことで、「教員の成長」につながることで、2年間担当すると教員が「カリキュラムマネジメントの重要性」に気づくことも明らかになった。コア探究Ⅲは学年関係なく多くの教員が担当する体制だったこともあり、担当3年目の教員もいれば、コア探究だけでこの学年にかかわる教員もいる状況であった。感想は以下のとおりである。

#### <担当者の感想>

- ・ いろんな分野の勉強ができ有意義だった。論文の内容についての的確な指導ができるよう勉強したい。
- ・ 異なる教科の教員が指導案を揉んでいく過程での発見や気づきが大きかった。自分の教科ではあまり使わない指導手法や生徒への声掛けなど学ぶことができた。
- ・ 生徒が自身の経験の中にある問から出発し、新たな知の創造に向かうコア探究の学びに関わっていたことで、自分の普段の授業も「日々の授業で論文のネタになるような創造的な学びのきっかけをつくらせているか」と考えるようになった。コア探究のような学びがあることで、日々授業に対する意識や在り方も考えるきっかけになっている。
- ・ 教員のモチベーションやスキルによって生徒の受ける指導に大きく差がうまれてしまう。もっと自分からやるべきだったと思うことがある。
- ・ 国語科がどのように関わっていくべきかを議論していきたいと思った。たとえば体裁について指導できれば、ほかの先生はもっと内容について指導できるかもしれない。
- ・ 自分と対話することの重要性を感じた。生徒の「なんで？」を重ねてあげることがよりよい思考につながる気がする。こちらが問いかけをして一緒に考えられるかどうかが大変だと思う。コアは「生徒の成長」もさることながら、「教員の成長」につながっている気がする。
- ・ 自戒をこめて、生徒の思考の浅さを嘆く人ほど、思考が止まっている場合が多々あるように思えた。
- ・ 自分が興味を持っている内容に対して高い能力を発揮する生徒がいることを知った。
- ・ コア探究＝8000文字論文を書くこととなっている生徒にとって、どこまで「探究」できているのか疑問。
- ・ コアが特別な授業でなく、日ごろの教科の授業の延長であることの意識を生徒だけでなく教員も持って授業に臨むべき。
- ・ 教科指導以外のところで自己肯定感をどう育むのかなど、自分自身の教員生活をふりかえるきっかけを与えてもらった。
- ・ 新しい学力を身につけたことへの充実感を与える指導ができなかったと反省している。
- ・ 問を立てることについて、もっと試行錯誤させた方が良い。

- ・キャリアの一環としても考えるなら、もう一つ軽めに進路とリンクさせたテーマで書かせてもよいかも。
- ・伝えたいことをマインドか方法論のどちらかに絞るべきだと思う。もし、マインドを育てたいのであれば、週に1時間・2時間の授業ではなく、朝読書・掃除・各授業など日常生活での要求レベルをもっと上げないと難しい。
- ・教科とコア両方とも担当した生徒がいて、その生徒の指導の過程で、日々の授業とコア探究の知の往還の必要性を感じた。
- ・本校の生徒はテストで点数を取ることが目標であり、それが全てになっている場合が多い。コア探究がきっかけになり、各教科で培ってきた論理的な思考や発想、知識がベースになることや、その全てを生かして自分の興味関心や社会的に価値のある問題について深めることなど、学びの本質を理解できた生徒もいる。
- ・多角的・批判的な思考力を必要とされ、それを満たすことができた論文を完成させることができた生徒にとっては大きな成長の機会となったと思う。大学に先行して、論文の書き方（テーマの設定の仕方、先行研究の調査、アウトライン作成、参考・引用文献など）を学んだり、作成することを高校生として経験することができたことは大学受験がない本校のメリットを生かすことができている。
- ・コアを中心にもう少し教科をつなぐことができればよいと思う。

★教員の感想からも、自分に矢印を向ける教員はコアの指導を自分の授業改善につないでいることがわかる。「自戒をこめて、生徒の思考の浅さを嘆く人ほど、思考が止まっている場合が多々あるように思えた。」「教員のモチベーションやスキルによって生徒の受ける指導に大きく差がうまれてしまう」というコメントもあり、コアは教員研修という点でも大きな可能性を持つと同時に重要な役割を担っているのだろう。またコアについての認識が深まることで、コアと教科の連携がより深まり、結果的に授業はもちろん、学校としての教育水準が向上するだろうこともわかる。

★学年関係なく多くの教員が関わる形では、教員間での指導の交流については意識しないと難しい。「〇先生と同じクラスに入らせてもらって生徒へのアドバイスなどを聞きながら学ぶこと（着目するところ・書く際のポイントなど）が多かった。経験のある先生から事前レクチャーなどの時間があればうれしい」というコメントにもあるように教員間での指導の交流が重要である。担当者配置の工夫、教員研修などが必要であろう。

#### 4) 保護者などへの効果、その他の成果

##### (1) 保護者などへの効果

学校HPや学年通信などでコア探究の取り組みについて情報提供している。またクラス保護者会でコア探究の学びを保護者に紹介したクラスも多い。コロナ禍ではあったが、生徒の学びの成果を保護者に見てもらえる場も設定した。こうしたことは保護者アンケートでの数値にも表れている。

(2) その他の成果：現時点で以下のような成果を残している。

##### \*メディアなどへの紹介

コア探究のカリキュラム開発について、日本教育新聞で6月～7月の間に3回連載された。またベネッセ総合教育研究所のHPにも掲載されるなど、取り組みを取り上げられる機会があった。

#### \* 他校への影響

今年度はコロナ禍であったが、5校程度の視察を受け入れた。またオンラインでの公開研究会を2回実施し、合計150人を越える参加があるなど、広く成果を発信した。この他に学校外でのコア探究の取り組み報告を、今年度だけでのべ学外の700人以上の先生方に行った。

#### \* ISIFでの生徒の活躍

ISN2.0（OECD日本イノベーション教育ネットワーク）の集大成ともいえる今年度（2020年度）夏の国際フォーラムISIFにおいて本校の生徒が中心的な役割を果たした。OECD（経済協力開発機構）や文部科学省と協働しての取り組みが進んでいる。

### 6 今後の研究開発の方向

以下の3点があげられる

#### 1) コア探究の位置づけ・取り組みの共有について。

この間の取り組みから、コア探究の実施を学年というチームで実施することにより、教員はコアを意識し、自分の教科とつなぐことが明らかになった。同時に生徒にとってはコアの位置づけも、コアと教科のつながりも個人差が大きいことが明らかになった。今後、生徒の中でコア探究がコアだという認識をより高めること、学校全体でコア探究をコアと位置付けたカリキュラムマネジメントを進めること、こうしたことが重要である。そのためにコア探究の取り組みを教員が理解することも重要である。

#### 2) 探究の力の深まり方、個に応じた指導など

生徒の個人差が大きく、習熟度のような指導の提案も教員からされている。ただ個人差については教員の印象にとどまっていることが事実で、生徒の探究する力について、その高まり方をロジカルに可視化することが重要である。

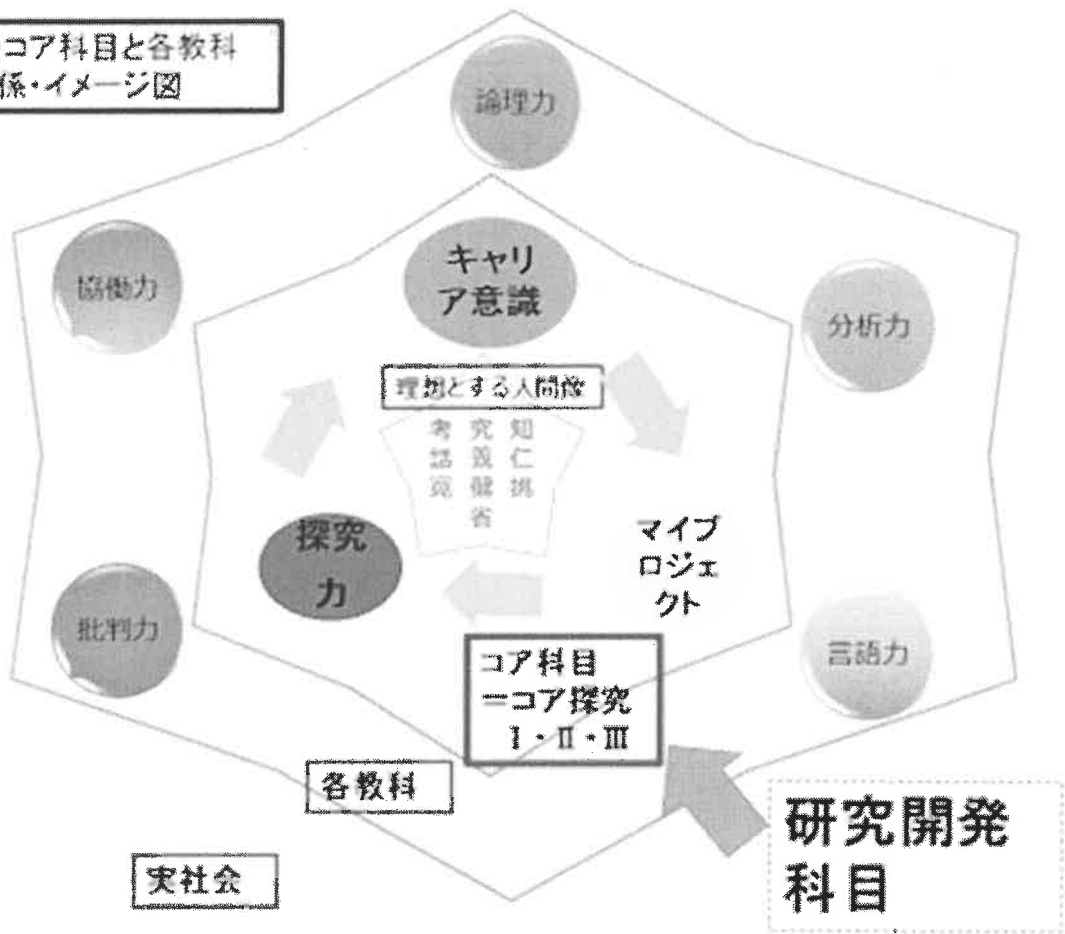
#### 3) 新指導要領の実施に向けて

総合的な探究の時間を「思考・判断・表現」の力を育てることを意識してカリキュラム開発を行い、同時に特別活動・キャリア教育を「学びに向かう力」を重視することが、カリキュラム・マネジメントを進める上で大切なことである。したがって、キャリア教育の要素を含んだ本校のコア探究は教育課程の「コア」であり。日本の学習指導要領においては「キャリア教育の視点」を十分に含んだ総合的な探究の時間と特別活動がIB教育におけるコア科目の役割を果たす

#### 4) その他（汎用性と独自性。研究としての位置づけ強化）

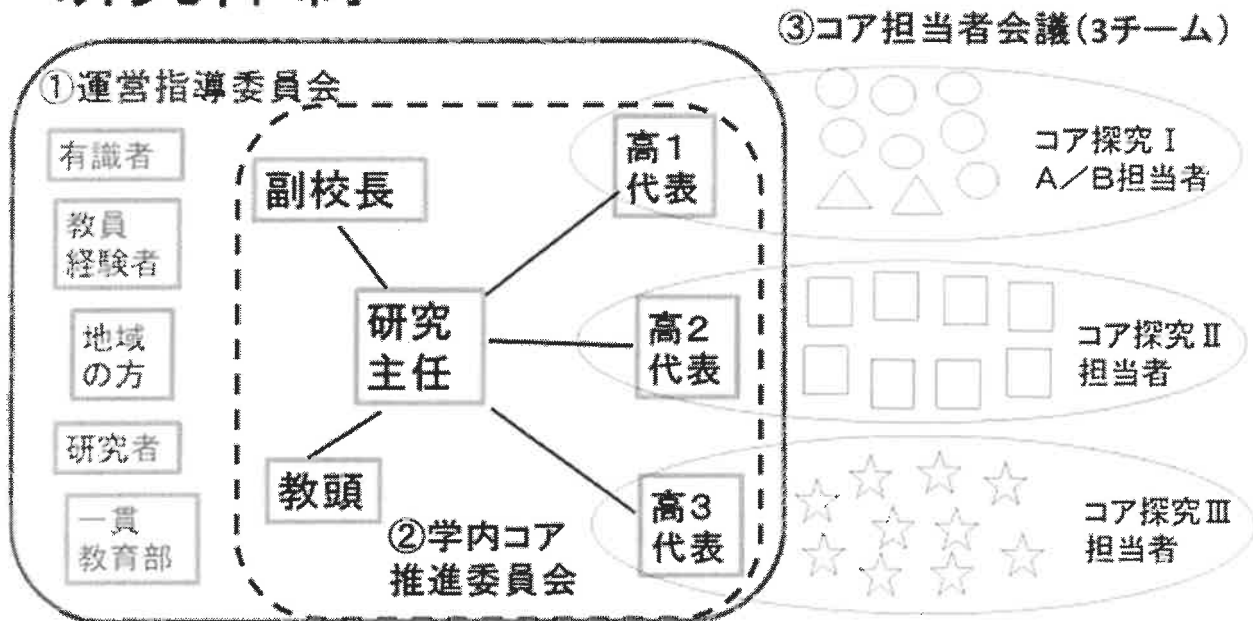
コア探究Ⅰ・Ⅱで開発したカリキュラムは汎用性があり、多くの学校で実施可能な内容である。一方コア探究Ⅲの後半期に実施を予定している内容は、入試ではない形の高次接続を意識したものであり、一般入試で多くの生徒が進学する学校では実施が難しい。このように研究開発だからこそ、汎用性と独自性を意識することが重要である。今後研究としての位置づけを強化することで、多くの学校にとって有用な知見が得られる。

(資料1)コア科目と各教科との関係・イメージ図



(資料2) 研究体制

## 研究体制



# 令和2年度 コア科目「総合的な探究の時間」研究の概要図

立命館宇治中学校・高等学校

## 【学校教育目標】

「自由と清新」と「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく理性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と倫理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的発展に貢献する。

## 【育てたい生徒像】

- ①豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び考える姿勢を持った生徒の育成
- ②高い教養と語学力と背景に、多文化協働でリーダーとして活躍できる能力の育成
- ③高い倫理観と規範意識を備え強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

理想とする人間像(learner Profile)「究」「知」「考」「話」「義」「寛」「仁」「挑」「健」「省」

## 【コア科目の目標】

各教科学習や各種自主活動に主体的・能動的に取り組む土台となる力を育成する。課題を設定する力や自らテーマを定めた課題研究を仕上げるアカデミックな力と、省察から将来の目標を設定する力や自己決定し自ら取り組むことができる力を持ち、自ら発信できるようになる。

コア:カリキュラムの要

2030年以降の教育への提言

ISN2.0への参加

総合的な探究の時間のモデル作り

## ④教員の変容

- \* コアの指導による教科指導への効果の可視化
- \* 学習する組織作りの研究
- \* チームで指導することによる指導力変容の研究

## ③生徒の変容

- \* リテラシーやコンピテンシーの変容研究
- \* キャリア意識の変容調査
- \* 教科学習への効果研究
- \* 課題研究の質向上、発信数増加などを測定
- \* 総合的な探究の時間がコアとして位置づく過程の研究

日本版コア科目  
(総合的な探究の時間)の開発

## ①カリキュラム開発 (コンテンツ)

### <段階的に高度化する探究カリキュラム>

高1(2単位) 徹底的につなぐ力  
 探究1 問いを立てることから“学ぶ意味”へとつなぐ  
 探究2 学びや経験を自分の未来とつなぐ

高2(1単位) 自分ごととなる課題を設定する力  
 探究3 自らが解決したい社会課題の設定  
 探究4 自分の探究テーマ・研究課題の設定

高3(2単位) 自ら発信する力  
 探究5 自らのキャリアと結びついた課題研究完成  
 探究6 課題研究の発信やプロジェクト化

## ②カリキュラムマネジメント・評価

### <探究を軸にしたカリキュラム構築>

- \* コア科目と各教科の関係の可視化
- \* 学びを評価する方法の研究
- \* 学びや経験を蓄積する方法の研究

### 校内組織=2つの組織

- ・推進委員会:副校長、教頭、研究主任、学年主任(3人)
- ・各学年チーム

### 研究組織=運営指導委員会

- 大学研究者、ISN事務局長、立命館一貫教育部、民間企業の方など

## TCKのために支援制度を変えるべきか

2年4組31番 濱岡 侑奈

### 1. はじめに

SDGsの目標の一つに「質の高い教育をみんなに」というものがある。果たして日本の教育はこの目標を達成できているだろうか。私は、帰国子女に注目してこの問題を考えてみた。

日本の高校での帰国子女へのイメージといえば、日本語と英語どちらもできるような非の打ち所がない、優れた人の印象が強い。しかし、TCKはこのような帰国子女とは違う。TCKとはサードカルチャーキッズの略であり、第三文化の子どもともいう<sup>i</sup>。彼らは、様々な国に住んだ経験があるものの、自分の居場所や故郷など自分がどこに属すかわからず自信を持ってないことが多い。

私もその一人である。そして、日本の学校はTCKの様々な異文化的考え方や価値観を持つことや、受け入れられるという長所を活かせないことに気づいた。このような経験を自分がし、感じたからこそ、TCKのために日本の学校の支援制度を変えるべきではないかと考え、詳しく調べた。

### 2. 現状

現在の日本では、グローバル化が進んでいることにより海外に転勤になる親が増えてきている<sup>ii</sup>。そして、今後も増加していくと考えられる。その一方で公立学校や私立学校での支援制度はこの変化に追いついていないように感じられる。そして、日本の多くの公立学校ではTCKは一般の授業を受け、自信をただ失っている<sup>iii</sup>。これは、TCKが自分の経験を生かすことができる制度がないからである。しかし、このような制度があれば自分と向き合いながら自信をもつことが可能になるのではないかと考えた。

### 3. 新たな支援制度

私は日本の学校に、三つの新しい支援制度を導入すべきだと考えた。一つは中学校のTCKへの充実した学力支援だ。この支援は、帰国子女(TCK)だけを一つのクラスに集め、複数の先生による支援の中で学力を上げていくという制度だ。TCKにおいての大きな学力的な難点は、日本の教育を限られた時間のみで行ってきたために、一般生徒と学力的に劣る部分があることだ。そのため、一般授業と分けることによって基礎からしっかり学ぶことができる。このような支援は何校かの国立大学付属学校で行われている<sup>iv</sup>。その一つに京都教育大学付属桃山中学がある。この中学には15人程度の帰国子女のみのクラスがあり、国語の先生が二人つくなど2年間様々な学力支援を得たうえ、三年生で一般のクラスに入る。このような中学校に通っていた立命館宇治のTCKはこの制度があったからこそ成長ができたと言っている。彼らは2年その学校に通っただけだ。しかし、高校から日本の学校に入ったTCKである自分から見ると、同じTCKでありながらも明らかに学力の差を感じる。このように、充実した支援を受けることができるだけでTCKは成長でき、自信をつけること



が可能になる。これは高等学校へ上がることへの不安がなくなることにもつながる。しかしながら、このような中学校は日本にはまだ10校にも満たない。

次に、高校では土曜日や放課後などの学校外の時間に補習授業での支援を行う制度を導入すべきだと考える。このような制度を入れることで一般の授業を受けて学校生活に慣れながらも、支援を受け学力を上げることができる。私の学校ではこのような制度が一年間あるが、この制度により翌年一般の生徒と授業を受けても、ついていくことができた。

三つ目は学校での授業においてよりTCKの今までの経験をより生かすことのできる授業形式にする支援のことだ。授業形式の一つの例は、話し合いをしながら授業の終わりに一つの答えのない問いに対して話し合いをすることだ。このような問いに取り組むことでは、一般の生徒の中でも様々な意見が出るものだが、TCKはより新しい、異文化的な考え方を豊富に持つことで全く想像のつかない答えがでる可能性を持っている。そのためこのような授業で少しずつ自分に自信を持てるのではないかと考えた。

#### 4. 結論

サードカルチャーキッズは、豊富な異文化体験をしてきたことにより様々な、他には得られない長所を持つ。しかし、現在の日本の学校では彼らの長所を伸ばせない。そこで必要なのがより多くの学校にTCKへの支援制度や、授業制度を導入することである。帰国子女を受け入れる学校は日本に多くある。しかし支援制度そのものには変化がない。将来のTCKのためにも、日本のためにも、支援制度を変えることは絶対必要であると考えます。そうすることによってSDGsの「質の高い教育をみんなに」という目標が達成されるに違いない。

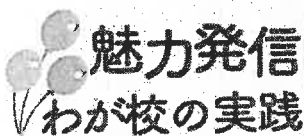
#### 参考文献：

- ① デビット・C.ポロック、ルース＝ヴァン・リーケン『サードカルチャーキッズ』スリーエーネットワーク、2010年、p.338
- ② 大津由紀雄『はじめて学ぶ言語学』ミネルヴァ書房、2009年、p.336
- ③ 坂本 利子「異文化交流授業から国内学生は何を学んでいるか」『立命館言語文化』24巻3号
- ④ 「過去最高を更新、135万人に一海外在留邦人」、ニッポンドットコム <https://www.nippon.com/ja/features/h00232/> 参照 2020-08-16
- ⑤ “E.D Hirsch, Jr”, The Core Knowledge Foundation, <https://www.coreknowledge.org/about-us/e-d-hirsch-jr/> 参照 2020-08-20
- ⑥ “What is Cultural Literacy”, Western Sydney University, [https://www.westernsydney.edu.au/studysmart/home/cultural\\_literacy/what\\_is\\_cultural\\_literacy](https://www.westernsydney.edu.au/studysmart/home/cultural_literacy/what_is_cultural_literacy) 参照 2020-08-20
- ⑦ 「国立大学付属学校帰国子女生徒教育学級一覧」、文部科学省、

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/007.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/007.htm) 参照 2020-08-20

- 
- i デビット・C.ポロック、ルース＝ヴァン・リーケン『サードカルチャーキッズ』スリーエーネットワーク、2010年、p.34
  - ii 「過去最高を更新、135万人に－海外在留邦人」、ニッポンドットコム、<https://www.nippon.com/ja/features/h00232/>、参照 2020-08-16
  - iii 「帰国子女体験記」、TCK workshop、<https://www.tckwshop.com/message/yabe/>、参照 2020-08-22
  - iv 「帰国子女教育の充実」、文部科学省、[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1318588.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318588.htm)、参照 2020-08-22

# 高校・特別支援学校



## 魅力発信 わが校の実践

(10)

### 立命館宇治中学校・高校

Ⓔ

## カリキュラムの「コア探究」 核「コア探究」から「生産者」へ

予測不可能な未来を創造していく今の生徒たちにとって、最も大切な力は何か。その力を育てるために、私たちは何ができるのだろうか。新学習指導要領の全面实施を直前に控え、さまざまな言葉が飛び交う中、私たちが常に考えているのはこ

の問いかもしれない。

約25年前に誕生した立命館宇治は、常に時代を創ることに挑戦し続けてきた。SELHI指定、イマージョンコース（現在のIMコース）の設置、関西初のIBディプロマ校に認定などを経て、昨年度からは文科省よりWLSLコンソーシアム構築支援事業の拠点校の指定を受けている。

これらの中から今回は、「コア探究」（総合的な探究の時間）の取り組みを3回にわたって紹介する。「コア探究」は文科省より研究開発学校の指定を受け、学習指導要領の

先行実施として一昨年度に取り組みを開始し、現在はWLSLの一環として取り組んでいる。高校の約75%が在籍するIGコースの総合的な探究の時間として実施している。取り組みの内容や実践を通しての生徒や教員の変化を伝えていきたい。

「お客さまから生産者へ」。大切なことは生徒と与えられたものを受け身に取り組み「お客さま」から、自ら何かの価値を生み出す「生産者」に育てること。これが「コア探究」で最も大事にしていくことである。

「コア探究」で生産者になるためのマインドとスキルを育てる。「コア探究」を中核として学校全体で生徒を育てる。

カリキュラムを考える委員会メンバーで一致したこの考えの下、「コア探究」は文字通りカリキュラムのコアと位置付けられている。今振り返ると、これはまさにカリキュラム・マネジメントの考え方だった。

「コア探究」は3年間合計5単位。何度も探究サイクルを繰り返すことが大切だという仮説から、3年間で探究のサイクルを6回繰り返すカリキュラムを設計した。1年生は「学ぶ意味の探究（問いを立てる）」、「学びや経験を自分の未来とつなぐ探究」、2年生は「自らが探究したい社会課題の探究」、「自らが探究したいテーマの探究」、3年生は「より良い課題研究の探究」、「課題研究と社会をつなぐ探究」がテーマである。

私たち教員は「目の前の生徒にとってより良いカリキュラム」を探究するが、重要なことは教員がチームとなり互いに成長することである。そのため、「コア探究」は学

年の担任が取り組む形に討の時間を確保し、教材の議論をするだけでなく、どのように授業を進めるのかなど、互いのノウハウの共有なども行っている。

（酒井淳平教諭・高3学年主任・研究主任）

# 高校・特別支援学校

## 魅力発信 わが校の実践

〈11〉

### 立命館宇治中学校・高校

Ⓜ



今回は「コア探究」(総合的な探究の時間)の授業や生徒の感想を紹介する。2年生の「コア探究」は「課題設定力を高める」ことを目標とし、前半は地域の魅力化、後半は個人課題研究のテーマ設定に取り組んでいる。学校だけでなく、社会

# 探究通じキャリア意識向上

との関わりからも、自ら部を訪問した。が興味を持つ課題に気付いてほしい。こうした思いから、前半は地元宇治の魅力化を考えている。他地域との比較を通じて宇治を客観的に見る視点も大切と捉え、昨年度は4月の満足を地域課題発見PBL型にし、京都北

い大人との出会い」である。生徒からは「昔ながらの良き街並みの中でおばあちゃんたちと『はったい飴』を作るツアー(与謝野町「京都北部」の魅力化)」「高齢者の方のグリープリビング(地域福祉課の視点で宇治市の魅力化)などが提案された。当初は「高校生が地域の魅力化を考える意味があるのか/そんなことできるのか」「そもそも地域は本当に課題だらけなのか」などと考えていた。生徒たちだが、学習後は「課題に対する視点を複数持つことができるようになった」「プロジェクト

「コア探究」の学びを通じて、生徒たちは「問いを立てることができるようになり、知りたいことを深く掘り下げることができるようになった」「課題研究のテーマ設定をするに当たり、自分との対話不足に気付き、そこから常に自分を見つめるようになった」など、自分の変化や成長を実感している。確かに学習する意味の実感やキャリア意識の向上など、生徒の変化はアンケート結果の数字にも表れている。(酒井淳平教諭・高3学年主任・研究主任)

これまでの学びについて報告するために、生徒が使用したポスター

# 高校・特別支援学校

## 魅力発信 わが校の実践

〈12〉

### 立命館宇治中学校・高校

①

# 「コア探究」が教員の成長の場に

最終回の今回は、「コア探究」を実施しての教員の変化や、他教科との連携について紹介したい。

「『コア探究』を中核として学校全体で生徒を育てる」という考え方にあるように、「コア探究」と各教科の連携は重要なポイントである。徐々にだが、「コア探究」は各

教科とつながり始めている。例えば、政治経済では、生徒が「コア探究」で取り組んだ宇治市魅力化をブラッシュアップする取り組みが実施され、市議会へ提案するということ取り組みが実施された。国語科では、課題研究のテーマを設定する際に、文章の書き方を指導している。英語科では、生徒たちがスピーチのテーマを考える際に、「コア探究」での問いを立てる学習を生かしている。

こうしたことが起る背景には教員の成長がある。「コア探究」の授業を担当している教員は、業の運び方などを話し合

「『コア探究』の学びが教科の学び全体に波及することを実感できるとモチベーションが上がるのでは。学校全体で身に付けたのはこうしたことも

「『コア探究』の学びがとるものが『コア探究』であり、カリキュラム・マネジメントはそこから始まる。私たちが気付いたのはこうしたことも

新型コロナウイルスの影響で長い学校の臨時休業期間があり、「コア探究」の取り組みも変更を余儀なくされている。これまでの取り組みで生徒のコアを育てることができていたのかどうか、そのことが今問われているように思えてならない。社会が大きく変化するその過程に

（酒井淳平教諭・高3学年主任・研究主任）

# マイプロジェクト

堀翔太さん 立命館宇治高校3年

## 京丹後の魅力を多くの人に

私は高校1年生の時に探究の授業で京丹後地方の活性化について取り組みました。それがきっかけで地方活性化に興味を持ち、たくさんの自然や風景を破壊せずに活かすような地方ビジネスを成り立たせたい、という強い気持ちを持つようになりました。その夢の実現のために「#丹後のミカタ」という団体を作り、活動しています。

「#丹後のミカタ」は京丹後の魅力を少しでも多くの人に知ってもらい、京丹後ファンを全国各地に作り、京丹後にインバウンドを生むことを目的として設立しました。

これまでに学園祭で特産品の販売を行ったり、京丹後に行った気分になれるようなリアルな風景映像や郷

土料理の試食を行ったり、視聴者に届けるオンラインツアーの企画などを行ってきました。

プロジェクトを進めるにあたり、一緒に取り組む仲間を集めることには特に苦労しました。一緒にプロジェクトを進めている後輩と口論になったこともあります。プロジェクトの魅力や意義を伝えることも苦労しました。今もその苦労は続いています。

苦労は多いですが、自分が主催したイベントが成功したときはうれしかったです。特に文化祭での特産品の販売では、仕入れた商品のほとんどが売れ、予想以上の売り上げとなりました。多くの友人が企画を手伝ってくれ、当日は多くの人が足を運



プロジェクトについて京丹後の人たちに相談に乗ってもらいました



文化祭では京丹後を多くの人に知ってもらうためのイベントを企画しました

んでくれました。自分のやってきたことは間違っていなかったと感じると同時に、京丹後をいろんな人に知ってもらえたことがうれしかったです。

プロジェクトを始めるまでは企画を主催することはもちろん、クラスでのリーダー役もやったことがあります。自然とリーダーシップを発揮できた

のかも知れません。

「#丹後のミカタ」の活動はまだ始まったばかりです。オンラインツアーを実施することはもちろん、アンテナショップなども検討して、丹後の魅力をより多くの方に伝えたいと思います。

卒業後は大学に進学する予定です。大学では地方創生のための「まちづくり」について学びたいと思っています。大学生になることで、「#丹後のミカタ」の活動の幅や可能性もより広げたいと思っています。

### 高校生マイプロジェクトとは

全国の高校生が身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行する探究型学習プログラムです。NPO法人カタリバ（東京）が2018年に始めました。参加した高校生が年に1回、活動を発表するイベントもあります。これまでの活動を紹介します。

「生徒の気が通じ学び」を最大化するプロジェクト、オンライン対話 (1/4)  
 『学校としてどうカリキュラムを構築するか』 発表資料

## 「学校としてどうカリキュラムを構築するか？」



Your Link to the World

酒井 淳平  
 立命館宇治中学校・高等学校  
 (高3学年主任・研究主任)  
 junpei@ujc.ritsume.ac.jp



## 立命館宇治中高について

- ・IB認定校、SGH指定
- ・6人に1人は帰国生
- ・研究開発学校→WWL指定校
- ・陸上部、野球部などスポーツ
- ・内部進学生徒も多い  
 (受験にしばられない)←メリット??

多様な生徒が  
世界水準で活躍



## 自己紹介

酒井淳平 (さかいじゅんぺい)  
 立命館宇治中高 高3学年主任・研究主任

(略歴など)

- 1997年4月～1999年3月 京都食品衛生専門学校 非常勤講師  
 (小学校からつまずいた生徒たちに高校の単位として数学Iを教える)
- 1999年4月～2008年3月 立命館中学校・高等学校 教諭  
 (9年間ずっと担任、中1～中3、中1～高3)
- 2008年4月～現在 立命館宇治中学校・高等学校 教諭  
 (2008年～2013年3月 初代キャリア教育部長)
- 2013年度～2015年度 文部科学省 研究指定 責任者  
 「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」(全国5校)
- 2018年度 文部科学省・研究開発指定校(探究) 研究主任+高1主任  
 (2019年度～文部科学省WWL指定)

- ・科研費研究協力者
- ・CDA(キャリアカウンセラー)
- ・啓林館、新編教科書編集協力者
- ・文科省系の仕事(各種委員など)



## コア探究実施までの流れ(ここ数年)

1994年度 学校法人立命館と合併  
 →学校大改革、先進的な取組多数

①2013年度 CSL(キャリア教育授業)開始  
 (文科省研究指定を受けての取り組み)  
 ⇒生徒の成長+多くの学校に広がるという予想外の成果あり!

②2017年1月 カリキュラム委員会スタート  
 (若手～中堅教員がチームとなって次の学校作りを考える)  
 ⇒似たような問題意識!コアの必要性が共通認識になる!

③2018年度 新カリキュラムスタート→今に至る  
 (文科省の研究開発指定校として総合的な探究の時間のモデル作り)

探究だけを  
したいの  
ではない



## 今日の話提供のベース

①日本教育新聞記事(事前送付資料)

②学びの場.com記事(2つ)

<https://www.manabinoba.com/tsurezure/019326.html>

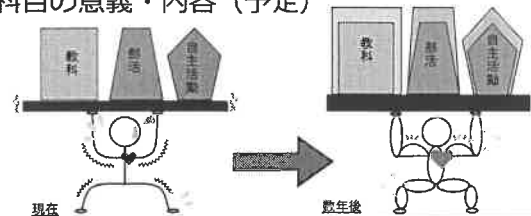
→なぜ探究なのか?(大事なのはHOWでなくWHY)

<https://www.manabinoba.com/tsurezure/019386.html>

→なぜ探究に取り組むのか?～立命館宇治の場合～

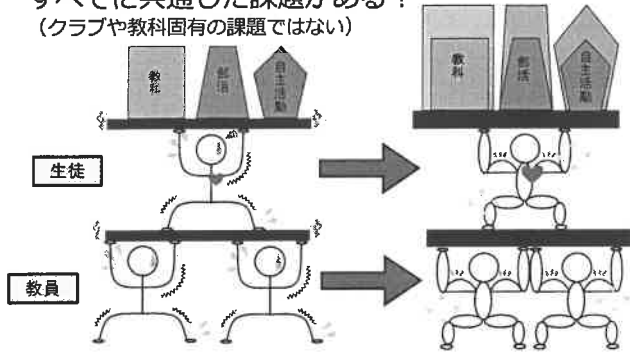


## コア科目の意義・内容(予定)



| 現在  | 高校1・2年コア  | 高校3年   |
|---|---|--|
| <b>中学コア</b><br>○コア選徳<br>「自分で問いを立て深く考える」<br>○教科横断<br>「学びへの意欲・興味関心」<br>⇒自ら学びを深める力を育てる | <b>高1コア</b><br>「スタディースキル」「チーム作り」<br>「問を立てる力」「深い思考力」<br>⇒自分の生き方を深く考える<br><br><b>高2コア</b><br>「ソーシャルチェンジ」<br>「マイプロジェクト・テーマ設定」<br>「進路探求」<br>⇒課題研究に繋がるマインドを育てる | <b>高3年</b><br>○課題研究<br>「マイプロジェクトの集大成」<br>「論文→発信へ」<br>⇒自ら生み出す力の育成・実現<br><br>○キャリア<br>「自らの進路を自ら切り開く」<br>「大学進学目的意識」<br>⇒自らのキャリアを自ら切り開き、よりよい社会を築き上げる一員として輝けるマインド・スキルを身につける |

すべてに共通した課題がある！  
(クラブや教科固有の課題ではない)



教員：コアが教科を越えた教員の繋がり場に  
→教員集団の力量UP!!



教員アンケートからわかったこと

生徒の現状： 従順だが受け身



探究

お客さま

育てたい生徒像：

意欲 (学ぶこと・人生そのもの) にあふれ、  
自ら学び行動できる生徒

生産者

探究中心にお客様を生産者にする！



この生徒実態であってる??  
→全教員に調査してみよう！



カリキュラムを  
デザインする



教員アンケートからわかったこと

生徒の現状：  
従順だが受け身

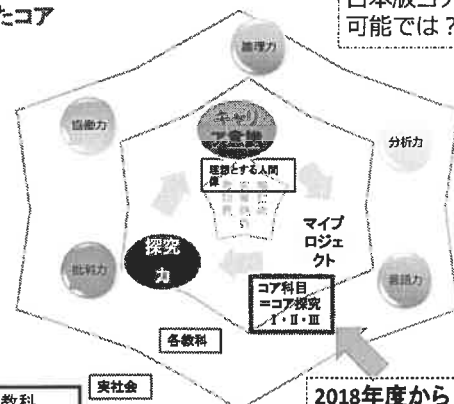
育てたい生徒像：  
意欲 (学ぶこと・人生そのもの) にあふれ、  
自ら学び行動できる生徒

思っていることはみんな同じ！



キャリアと探究  
を柱にしたコア  
の育成

IBにはコアがある！  
日本版コアは総合で  
可能では??



コア科目と各教科  
との関係・イメージ図

2018年度から  
実施！！





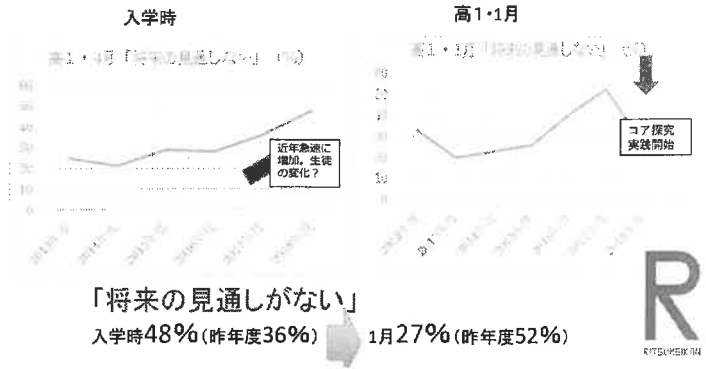
# カリキュラム構築の考え方

- ①伸ばしたい資質能力を焦点化  
テーブルクロス理論
- ②探究サイクルを繰り返し徐々にレベルアップ  
問いを立てることも練習が必要
- ③課題研究はゴールではない  
本校にとって高3後期は重要

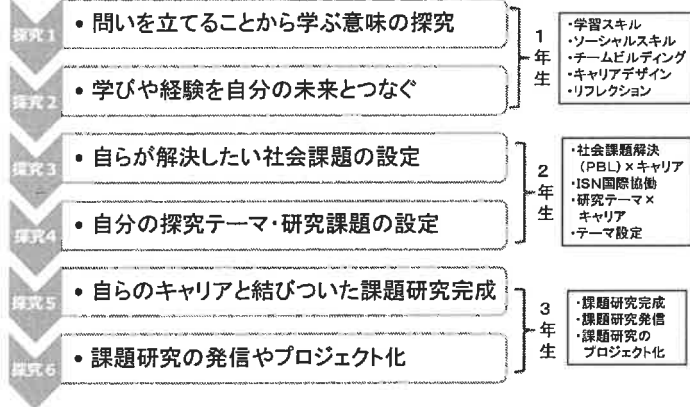


成果例④「生徒の変化」

## 将来の見通しが無い生徒が激減！



# 3年間で探究を6サイクル！



成果例④「生徒の変化」

## コロナ過で動いた生徒たち！

### ＜生徒の行動例＞

- \* 自分で計画を立て、授業以外で毎日5時間勉強
  - \* 2か月で376時間と猛烈に勉強
  - \* 毎朝ランニングを20～30分続けました。早寝早起きを続けられました。
  - \* 美味しいラーメン作り企画。動物の骨や乾物、香味野菜などからスープを取り自分でタレも具材も作った。
  - \* 毎日夜まで母が仕事であるため、家事全般を自分が担当。少しでも夜まで仕事の母を楽にさせてあげられるように動いた
  - \* GCが募集したオンライン模擬裁判への参加。検察チームのリーダーとなり初めて人をまとめる経験
  - \* 中高吹奏楽部の部員を募りテレワーク演奏実施
  - \* 京丹後の活性化プロジェクトに向けた、ミーティング主催の準備
  - \* ガウンを50着作り、病院に寄付。日常を崩さない。
  - \* ISN国際会議開催のための会議参加と準備
- \* 時間の使い方コンテストから(HPIにもあり)

成果例④「生徒の変化」

## 本校生徒がOECD主催のオンラインワークショップに参加！

～2030年以降の教育についておよそ130か国のメンバーで議論しました～



## 今、思うこと

- ①ごく普通の教員集団で、放課後や週末はクラブで忙しい教員や、家庭の事情など働き方に制約のある教員が多いからこそ、汎用性のあるプログラムができつつある。  
(無理をしすぎるプログラムは続かない)
- ②与えられた条件で仕事をするのがプロ。教員は成長する。大切なのはチーム。

教員は集めるものではない！  
一緒に成長するもの！！



# もっとも 大きな成果は 教員の成長！



## 若手教員から

稲垣桃子（いながきももこ）  
立命館宇治中高 高3担任

地元（静岡県）の進学校にて、受験と模試と国立公立合格率を上げるための「勉強」にいそしみ、探究の「た」の字も知らない生活を送る。学校の方針である「国立大学への進学」が叶わず、「落ちこぼれ」として逃げるように京都の私立大学に進学。その後も、探究とは無縁の生活を送る。

2017年 立命館宇治高校にて教員生活をスタート。（高2担任）  
「探究」という言葉を知る。→「絶対、関わるのやめよう。」

2018年 高1担任として、「コア探究I」を担当。  
決定した時、「完全に就職間違えた！」と思う。  
→「あれ、やってみたら、意外と面白いじゃん？」

2019年 高2担任として、「コア探究II」を担当。  
→ブチ反抗期でコア探究II乗っ取りを目論む。

2020年 高3担任、高2授業担当として、  
「国語の枠に収まらない国語の授業」を目指して試行錯誤中。



コアに取り組む中でカリマネの重要性に気づく！

### 教員の総括から （高2終わり）

- 1単位の授業の中だけでコアで目標としていることを伝えるのは難しいと思う。正直、授業だけで身につけることへの限界を感じた。
- コアでの学びが教科の学び全体に波及することを実感できると、もっとモチベーションが上がるのでは。逆に言うと、そもそも学校全体で身につけさせたい学力についての共通認識がなければ、場当たりの授業になってもったいない。
- コアが目指す力をコアのみで身に付けさせようということは、愚の骨頂。日々の生活、部活、授業、すべてにおいて「核」となるようなことをやっているのだとしたら、コアで学んだことを自然と出せるような授業づくりなり、生徒への働きかけが必要となる

2020/01/24

RITSUMEIKAN UJI JUNIOR AND SENIOR  
HIGH SCHOOL

20

## きっかけは「反抗期」

### 新カリで国語の必修単位が減る！

こっちはぼう  
がカッコいい  
かも！

「環境が悪い」と文句を言いつつ、文句しか言わず、実質的には受け入れる。（2単位でできることだけをやる）カリキュラム委員だった酒井先生とは口をきかない。（ふてくされる。）

受け入れる振りをして、徹底的に反抗する。使えるものを全部捨てたから「探究」が「国語」に引っかかっちゃいました！という既成事実を作る。カリキュラム委員だった酒井先生を踏み台にする。



## 教科の取り組みとコア探究を つなぎ始める！

### 各教科の取り組み （一例）

- 政治経済：コアの取り組みをブラッシュアップ→宇治市議会へ
- 国語：論述課題のレポートをコア探究のものに
- 英語：スピーチのテーマ採してコアの手法を使う

2020/01/24

RITSUMEIKAN UJI JUNIOR AND SENIOR  
HIGH SCHOOL

21

## 現在の授業実践

## 日本語I コア探究

### 日本語I × コア探究

コア探究IIで問立てした内容で、ミニ文章を作成。その構成や体裁、論理性などを国語の論述課題として指導、評価。国語で用いている文章作成シートをコアでも使用。

【テーマ】  
現状の自分の研究を文書にしてみよう！  
【ルール】  
①字数：800字以上1000字以内  
②金庫型文章（起承転結）  
③リサーチエッセイ（リサーチを定めた理由・仮説・どのように実証したか、先行研究との関係性、【つまり、仮説シートを実証化する、ということ】）  
【採点ルール】

| 項目        | 採点                                 |
|-----------|------------------------------------|
| ①字数       | 800字以上1000字以内                      |
| ②金庫型文章    | 起承転結                               |
| ③リサーチエッセイ | リサーチを定めた理由・仮説・どのように実証したか、先行研究との関係性 |
| ④採点ルール    | 採点ルール                              |

## 現在の授業実践

【近現代レポートテーマ】

# 文学作品×学問



その文学作品を、  
ある学問の視点に着目して見てみると...?  
Ex. 『こころ』×経済学



## コア探究を担当して

2018年 春

本当にやりたくない。カリキュラムに存在している理由が分からない。逃げたい。就職間違えた…。そもそも、「国語」で採用されてるのに、なんでわからないものやらなきゃいけないの??



2019年 春

探究って、難しいけれど、生徒にとっても、教員にとってもやってみる価値はある。…頑張ってみようかな。



【近現代レポート裏テーマ】

# 問を立てる 様々な視点で文学 作品を読み解く



## 授業とは

探究に関わるまで

試験問題が解けるようにすること  
与えられた問に対して答えが出せること



【例】

「こころ」×社会福祉学



## 授業とは

隙をくっつけてから

# 視野を育てること

- ・1つの物事を様々な視点から見ること
- ・「現代」を見つめる切り口を増やすこと



自分なりの問を立て、それを解決していく経験をする

そのためのコンテンツが教科であり、コンテンツと「今」をつなぐ裾が探究なのでは?



カリキュラムを作るために必要なこと？（私論）

心技体（人？）

心：思い、  
技：教材開発力、文章を書く力  
体（人）：仲間

意識すべき動き？：縦と横、地味と派手  
縦と横：管理職と現場  
地味と派手：日常のカリキュラムと非日常の場



## （最後に）この間見えてきた仮説

- ①振り返りは大切！  
（1年1月→1年2月 学びに向かう生徒の姿の数字向上）
- ②教員は2年担当すると自然とカリマネの重要性に気づく？
- ③キャリア教育と探究は文科省通りの分け方では難しい。  
（特活と総合の島争いではうまくいかない）
- ④取り組む上での課題は、生徒の個人差という古くて新しい課題と教員のマインドセット。
- ⑤カリキュラムのコアとは次の3つ？
  - i) アカデミックな「コア」
  - ii) 生き方・マインドとしての「コア」
  - iii) 教科の壁を越えた教員が育つ「コア」